●わが町にしなり子育てネットの５年間とこれから..... 3

●わが町にしなり子育てネット２００４年度　活動記録..... 8

●２００４年度　事業報告..... 9

1. 全体会・幹事会・委員会の開催..... 9
① 全体会の開催 9
② 幹事会の開催 9
③ 各種委員会の開催 10

２．子育て交流会（あい･ｅｙｅ･ネット）の開催..... 10

３．子育ての集いの開催..... 11

４．フリーマーケットの開催（リサイクル）..... 11

５．　委員会の活動報告..... 11
① サークル委員会 11
② 子育て講座委員会 12
③ 子育ての集い委員会 13
④ ミニコミ紙ハギッズ編集委員会..... 16
⑤ マップ作り委員会 17
⑥ ホームページ編集委員会（たんぽぽ）..... 17
⑦ 虐待防止ネット委員会 18
（1）児童虐待防止のための講演会．研修会..... 18
（2）ＭＹ　ＴＲＥＥ　ペアレンツ・プログラム..... 19
⑧ 中高生委員会 39
⑨ あい・ｅｙｅ・ネット 39
⑩ フリーマーケット実行委員会..... 41
⑪ みにみにフリーマーケット 45
⑫ 子育てボランティア活動報告（すみれ）..... 47
⑬ 情報誌編集ボランティアグループ（ひまわり）..... 48
⑭ 子育て支援員の活動 49
・子育てサポーターによる子育て相談事業..... 50
⑮ 「中高生のからだ・心・性についてのアンケート調査」結果報告..... 52
⑯ ころころくらぶ「産みたいあなたへ」冊子づくり..... 54
⑰ 広報･宣伝 58
⑱ 組織 58
⑲ 財政 58
⑱ その他 58
Ⅰ．クリスマス チャリティー・イベント..... 58
Ⅱ．キッズクッキング開催報告..... 59
Ⅲ．第８回 あったかハートフェスティバルへの参加..... 59
Ⅳ．情報発信連絡会の開催..... 59
Ⅴ．はーとクラブの活動..... 60

６．助成金事業 61
① キリン福祉財団助成事業 61
② 福祉医療機構　助成事業 63
③ 「家庭教育支援総合推進事業」実施報告書..... 65

Ⅰ．子育て真っ最中の母親のレスパイト講座..... 65
Ⅱ．１０代の妊産婦、母親を対象とした講座..... 66
Ⅲ.「中高生のからだ・心・性についてのアンケート調査」..... 67
Ⅳ．パソコンボランティア講座..... 68
Ⅴ．ミニコミ紙編集ボランティア講座..... 68
Ⅵ．子育てサポーターによる子育て相談事業..... 69
Ⅶ．子育てサポーター交流事業（あい・ａｙａ・ネット）..... 70

７．２００４年度　会計決算書..... 71

●わが町にしなり子育てネット　会員名簿..... 74

わが町にしなり

子育てネットの５年間とこれから

わが町にしなり子育てネット 代表　小掠　昭

１．子育てネットの誕生　－今までの各種の活動や組織が一つになって－

子育てネットの誕生は、1999年９月２１日に区内の３つの児童施設（西成児童館．トモノス西成．今池こどもの家）が連絡会を持ったことがきっかけです。運営主体が異なる３施設が地域の子育て支援という共通の課題に対し、単なる意見交換に止まらず「子育ての集い」の開催という大きな目標を掲げ、そこに子育てサークルや公私の保育所．保健所など２２団体が結集し、翌年３月に第１回「子育ての集い」が梅南・橘集会所で開催されたのです。「集い」の開催の企画と準備という共通の作業を通して、お母さんたちと地域の施設と役所（親．民．官）が一つになって「いつでもどこでもみんなで子育て」運動が西成の町で始まったのでした。（発足．2000年５月２４日．子育てサークル．施設．役所など３８団体が参加）　発足当初から、このネットワークは子育て、子育ちの主体は親であり、子どもであるということを常に意識しながら、運動の広がりと専門性（虐待防止や子育て相談など）のある支援の輪を広げるために、区内で1995年頃から活動している「あいりん子ども連絡会」や同和地域の子どもに関するネットワーク、それに医療機関などからの参加も得て、親同士による子育て相談や相互の支えあい（ピアカウンセリング）を始めとする様々な立場や方法による支援体制を構築していきました。

２．子育て支援は親こそ、担い手の中心に

誕生した「わが町にしなり子育てネット」は一人のお母さんや地域の人たちが気軽に入会できるよう会費はとらないことにしました。発足後、すぐに西成区社会福祉協議会より活動助成金の応援がありました。おかげで2001年１月には子育てミニコミ紙「ハギッズ」の第１号を創刊できました。「ハギッズ」は西成区の花「萩」と子どもの「キッズ」を組み合わせたものです。２年目（2001年）には社会福祉･医療事業団よりの助成金（180万円）で区内の主な公園や子育て関係の施設や役所が分かる「子育てマップ」を作りました。これはお母さんたちや施設．団体の職員たちが町を歩いて作ったものでした。親は子育て支援のサービスの受け手であるとともに、その担い手でもあるというネットの方針のもと、親たちの活動は様々な方面に広がっていきました。

３．親から親への子育て応援メッセージの発信を

◆０４年度目標①《親から親への子育て応援メッセージの発信を》　その年の７月にはハギッ

ズ編集のボランティアグループ「さくら組」が誕生し、名実ともに子育てのミニコミ紙に成長しました。今年の１月に５年目を迎えた「ハギッズ」は創刊以来27号を数え、区役所や区内関係施設などに置かれ、子育て中の親の目に止まるよう工夫されています。次に「ホームページ」が開設され、その作成と管理を受け持つお母さんたちのグループ「たんぽぽ」が発足しました。ネット上での子育て情報の発信と、親同士による子育ての悩みの相談など、ネツトが目指すピアカウンセリングの形態がここでも見受けられるようになってきました。03年には大阪市民共済会の助成を受け、子育てネットワーカーの育成とその組織化の事業（講座）を行いました。この講座終了後、あらたに子育て情報誌を編集・発行するお母さんたちのボランティアグループ「ひまわり」が誕生し、１年かけて子育てハンドブック「Ｍａｍａ’ｓう゛ぉいす」（福祉医療機構．子育て支援助成金）を編集し、05年３月の「第６回子育ての集い」（区民センター）に合わせて発行しました。これはほとんどすべてがお母さんたちの手と足によるもので、まさに子育て中のお母さんからお母さんへのメッセージといえましょう。個人ボランティアとしてメールマガジン発行の「にしなり子育て情報館」を含め、これらの情報発信ボランティアグループの相互の交流と連携のためのネットワークも誕生（04年）しました。

４．続々と子育てボランティアが誕生

◆０４年度目標②《新しい子育てボランティアの仲間を増やそう》

また、１０代の妊産婦読本「産みたいあなたへ」を文部科学省の家庭教育支援総合推進事業の助成金を受けて発行しました。この冊子は１０代で子どもを産んでがんばっているママさんたちが、今からがんばって子どもを産もうとしている１０代のママさんたちへ「ゆっくりがんばってね」という応援の気持ちがいっぱいつまってできたものです。西成だけでなく大阪市内や府下の保健福祉センターなどの窓口に置かれています。03年度に誕生した、保育ボランティア「すみれ」は多数のメンバーのもと、区内外で活発な活動を展開しました。おかげで子育て真っ最中のお母さんたちもひととき、子育てから解放されてゆっくりと講座をうけたり、リフレッシュできる機会が持てたと思われます。お母さんが家に閉じこもるということはその子どもも社会から遮断されるということです。お母さんの社会参加は子どもにとっても新しい世界の体験の場であり、人と人の交わりの中でしか経験できない共感と信頼づくりの時間、空間でもあるのです。このような親たちの自主的で創造的な活動は、ネットが目指す、親が親による親のための子育てネットに一歩一歩近づいている感じがします。それは親がサービスを受ける立場だけでなく、このような活動を通して親自身がサービスを提供する側に立つことの大切さを教えてくれています。

５．児童虐待防止の取り組み

◆０４年度目標③《虐待ゼロのまちづくりを目指して》

子育てに苦しさを感じている「親の回復支援プログラム」（ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラム）講座を１３回シリーズで、03年度は日本看護協会の「まちの保健室」事業として、04年度は福祉医療機構の助成金を受けて行いました。ネットのメンバーである芦原病院女性科の専門職員が担当し、子育て支援センターなどが保育を受け持ちました。　04年１０月１日「児童虐待防止

法」が改正施行されました。同法の制定によって問題の発見から通告へのシステムは敷かれたものの、親側の虐待行動からの回復を支援する具体的な方策は未整備の状態にあります。そこで虐待行動に至った親、あるいは非常にリスクが高い親のための回復・ケアプログラムを大阪府・市の協力を得て「ネット」で実践することにより、ハイリスクの親支援のノウハウを蓄積し、子どもの虐待防止におけるネットワークの実践力を高めていこうというものです。参加した親たちや子どもたちは、自分たちが本来持っている力を改めて発見したり、お互いの大切さを認め合う機会を得たりしました。また、この事業に携わったスタッフたちも児童虐待防止の在り方について学びの多いプログラムでした。これとは別に実務者や一般を対象とした児童虐待防止のための研修会や講演会を区内外から多数の参加者を得て毎年開催してきました。　私たちの目標の一つに「虐待ゼロのまちづくり」があります。西成区役所の統計によると、児童虐待防止法が施行された後、（０１年以降）今まで“黙視”されてきた虐待が法的効果（通告等）もあって放置されることなく取り組まれ、件数は全国的にも大阪市でも増加していますが、逆に西成区では減少傾向にあります。（下表）

	2001 年(平 13)	０２(平 14)	０３(平 15)
全　国	２３,２７４	２４,１９５	２６,５７３
大阪市	４８２	５１８	６３４
西成区	４０	２９	２６

以下、西成区役所発行の「統計基礎数値でみる西成区」

～地域福祉計画アクションプランの策定に向けて～　の一部を引用します。

『西成区では区内の子育てサークル、施設、行政等の幅広い参加によって「わが町にしなり子育てネット」が平成１２年（2000年）５月に結成され、子どもたちの健全育成ネットワーク活動の組織的取り組みが開始されていた。「西成区児童虐待防止・子育て支援連絡会議」はこのネットワーク活動と連動・合流する形で02年12月に設置され、中学校区を視野に入れつつ区内に輪を広げていった。これらの取り組みの効果が、児童虐待における西成区と中央児童相談所の取り組み件数の相違となって現れている。これは児童虐待が重篤に至らず、中央児童相談所の対応以前の段階、つまり区レベルの早期の取り組みによるものと評価されるべきである。いずれにしても、多くの地域住民の参加によるネットワーク活動が“社会的な援護を要する人たちへ支援を届け、孤独や社会的排除に伴う課題の問題解決”の一役となることを示唆する取り組みでもある。』

６．西成区地域福祉アクションプランで子育ての輪を広げよう

◆０４年度目標④《名実ともに親主体の子育てネットを》

子育てにひとり悩む親、孤立している親、そのような親の声や思いをどうネットがキャッチするかが問われています。また現在、ネットで活動するお母さんたちが本当に主体的に参画しているのかどうか、常に点検する必要があります。「子育ち」や「子育て」にやさしいまちづくりや「いつでもどこでもみんなで子育て」の主役は子どもたちであり親たちだからです。その子どもたちや親たちから、そのようなまちづくりのための課題や夢を出し合い、実現に向けて地域のみんなで取り組もうという「西成区地域福祉アクションプラン」がいよいよ動き始めました。西成に住んでいる人や働いている人たち一人ひとりがそれに参画する権利と協働という役割を持っていま

す。ネットの活動や区内の関係する団体や催しなどを利用して「子育ち」や「子育て」にやさしいまちづくりを推進するのです。ネットの活動から西成区全体の運動に広げるのです。
（アクションプランとは、“これからの西成”をどのようなまちにしていきたいか、を西成区に住む人たちや働く人たちなどすべての住民が様々な形で参加して話し合い、そして実現していく運動）

７． 子どもの権利条約の精神に近づこう

◆０４年度目標⑤《子どもの権利条約の精神に近づこう》

０４年１１月から１２月にかけて区内を中心とした中高生（９校.約2,700人）を対象に「中高生のからだ・心・性についてのアンケート調査」を実施しました。この調査の結果を受けて開催されたシンポジウムも含めて、「生命尊重」や「他者との豊かな人間同士のつながり」をもたらす教育の在り方について、私たち大人は大きな課題をつきつけられた感じがします。それはこのアンケートにも見られたように「大人」と「子ども」とのあまりにも大きな意識のズレや価値観の違いなどです。いや、このテーマに限らず、私たち大人は今まで「子どもの声」をどれだけ真剣に聞こうとしてきたのでしょうか。

以下、大阪市人権啓発推進協議会発行 小冊子「子どもの権利」より一部抜粋

> 今の大人たちがまだ子どもだったころ、大人の言うことはほとんど正しいと信じていました。たまに「少しへんだなぁ」と思っても、それをはっきり言ってみることもありませんでした。でも自分たちが大人になってみて「あ、大人も間違えることがあるんだ！」と気づいたのです。そんな自分を反省して、大人たちは、きみたち、子どもの権利も大切にしようと、みんなで約束をしました。子どもたちに「発達の権利」があるということは、少しぐらい子どもは間違えることがあってもいいということです。きみたち一人ひとりが失敗をおそれず、いろんなことに真剣に取り組んで、もって生まれた可能性を開花させていってほしいと思います。そのために、この冊子を今、心をこめて贈ります。

さきほどのアクションプランも含めて、一人ひとりの子どもたちの声を集め、「子どもの最善の利益」についてみんなで考えていきましょう。

子どもに関する事故や事件が相次いでいます。「自分は価値ある存在だ」「自分はかけがえのない大切な命だ」ということをすべての子どもたちがしっかりと心にいだき、「自分らしく生きる権利」を子ども自らが行使できるよう、私たち大人は環境を整えていかなければなりません。

８． あいさつとは「心を開いて近づく」こと

03～04年度は国の事業を受けて「子育て支援員」を事務局に配置し、様々な事業の核の一つとして重要な役割を担ってきましたがその事業も終わり、６年目に入る「わが町にしなり子育てネット」も一つの転機を迎えようとしています。

着実にネットが広がるのを感じながら、大切なものを網（ネット）の目からこぼしたり、網の一部がほころび始めてきたのも目に入ります。でも、逆に完璧なネットって網の目が細かすぎて、破れないよう堅くって、なにか息がつまりそう。少し破れていても暖かくて、やさしいネットの

ほうがいいと思いませんか。
　町の公園で初めて出合ったお母さんに、家からあまり出れないお母さんに、子育てで一人悩むお母さんに声をかけましょう。「おはよう！」「今日は！」「子育てネットって知ってますか？」って。あいさつ（挨拶）とは「心を開いて近づく」というのが語源なんですって。

２００５年度　活動方針（案）

① 子育て情報発信の充実と子育てボランティアの育成

　私たちの知らない所でネットの情報を必要としている人たちがいます。その情報が一方通行になっていないか、きっちりと届いているのか、常に受け手の立場に立った情報を発信しましょう。そして「いつでもどこでもみんなで子育て」の「みんな」をいっぱい増やしていきましょう。

② 児童虐待防止の実効的な取り組みの推進

　ＭＹ　ＴＲＥＥ（子育てで苦しむ親の回復支援プログラム）の継続とともに、西成区を対象とした新しい虐待防止の取り組みを考えましょう。区の児童虐待防止・子育て支援連絡会議の中学校区別実務者会議を６地区すべての校区に設置し、実効的な児童虐待防止の取り組みを推進しましょう。

③　乳幼児から小・中学生、そしてすべての子どもたちへの子育て、子育ち支援を

　私たちの町にも不登校や障害、ひとり親、在日、多文化共生、釜ヶ崎、同和問題など差別と困難を抱えた多くの子どもたちがいます。それらの課題に取り組むそれぞれの組織（西成区不登校連絡会など）と連携し、子どもの権利の大切さを町中に広げましょう。

④　西成区地域福祉アクションプラン子ども部会との協働による「子育て、子育ち」住民運動の推進

　これまでの種別（高齢．障害．児童など）中心の社会福祉が、地域や家庭中心の地域福祉へと変わっていく時代の中で、「子育て」「子育ち」も親だけの責任から、だれもが地域で安心して暮らせるよう、地域のすべての人が支えあい、相互に協力しながらそれぞれの役割を積極的に果たすという「地域福祉」の考えが中心になってきました。特に子どもは地域が遊び場であり、学びの場です。西成区地域福祉アクションプラン子ども部会と協働し、「子育て、子育ち」の住民運動を推進していきましょう。

⑤　組織の再編と事務局体制の充実

　６年目を迎えるネットは、ボランティア会議の設置など、それぞれの役割の明確化を計り、各種の活動をより自主的に推進するため、組織を再編します。
　また、事務局についても関係機関の協力を得て、有効な体制の充実に努めます。

●わが町にしなり子育てネット２００４年度　活動記録

事業別委員会	事　業　名	事業内容
①子育て サークル 委員会	● サロン０．１．２ ● サークルプール交流会	〈協力〉まちの保健室なにわ〈主担〉子育て支援センター 〈目的〉親の居場所作り．友だち作りの応援と子育ての悩み等の相談の場 〈日時〉7/21 青少年会館付設プール 親子２４名　スタッフ１８名
②子育て講座 委員会 (実習の会)	● 子育て実習の会	〈前期〉①ふれあい遊び6/11 ②手作りおもちゃ6/25 ③手作りおやつ7/9 〈会場〉トモノス．保健センター〈参加数〉親子延べ　６３組 〈後期〉絵本の読み聞かせ方 10/29 〈主担〉公立．私立保育所．保健ｾﾝﾀｰ
③子育ての 集い 委員会	● 第6回 子育ての集い	〈開催〉予定．３月２日（金）10～12時〈会場〉西成区民センター〈参加〉親子200組 約400名 〈スタッフ〉加盟６２団体 約100名〈内容〉ミニシアター．手作りおもちゃ．絵本コーナー． リサイクルコーナー．子育てなんでも相談所．子育てサポート施設・団体紹介コーナー等
④障害児の親 のｸﾞﾙｰﾌﾟ づくり委員会	● 親のグループ活動の 拠点づくり	準備中
⑤ミニコミ紙 委員会	● 情報紙「ハギッズ」の発行 ● 各種行事案内ビラの発行	《発行》隔月発行 4500 部(第21～26 号)〈主担〉さくら組．ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾋﾞｭｰﾛｰ 〈内容〉ｲﾍﾞﾝﾄ情報他　《発行》フリーマーケット．子育ての集い他
⑥マップづくり 委員会	● 公園情報の提供 ● 子育てマップ２の企画	〈内容〉公園での遊び(虫取り情報等)などハギッズで紹介
⑦ホームページ 委員会	● 子育てネットHPの 管理・運営	《主担》たんぽぽ 月１回編集委員会〈講座〉3～4回シリーズを５講座開催 〈内容〉ハギッズのHP版．おばあちゃんのひとりごと．保育所の庭開放等
⑧虐待防止 ネット 委員会	● 子育てに苦しさを感じている 親のためのMY　TREE	〈開催〉8/31～12/14．15回シリーズ〈会場〉青少年会館．子育て支援ｾﾝﾀｰ 〈主担〉芦原病院〈後援〉大阪府．大阪市〈助成金〉福祉医療機構
	● 子どもの虐待防止講演会	〈専門職・実務者対象〉10/8 PM2～4 半〈講師〉森田ゆり氏〈参加者〉約100名 〈一般対象〉1/28 PM6～8〈講師〉森田ゆり氏〈会場〉社会福祉研修情報センター
	● 虐待防止実務者研修会	〈目的〉区虐待防止・子育て支援連絡会議中学校区実務者会議の充実 〈ﾈｯﾄ会員対象〉7～11 月の5回ｼﾘｰｽﾞ（青少年会館）
⑨中高生 活動委員会	● わかもんネット	《活動》日時 毎週金曜日．夜．青少年会館〈主担〉青少年会館
⑩中高生性意 識調査委員会	● 中高生 性意識調査	《事業》中高生(9 中高生約2700 名)の性意識ｱﾝｹｰﾄ調査(協力．府市教委)3/4 シンポジウム
⑪あい・eye・ﾈｯﾄ 運営委員会	● あい・ｅｙｅ・ネット開催 （子育て交流会）	〈趣旨〉子育て真っ最中のお母さんたちの意見（想い）交換と交流の場 〈開催〉毎月（第３木 AM10:30～12）〈会場〉西成児童館
⑫ﾌﾘｰﾏｰｹｯﾄ 実行委員会	● 第3回フリーマーケット	〈開催〉10 月 31 日(日)11～15 時〈会場〉西成区民センター 約1,000 人 〈内容〉フリーマーケット５６ブース．飲食店4店．抽選会他
⑬子育て支援員 事業	● 地域子育て支援ピア カウンセリング事業	〈内容〉専門スタッフ２名を配置し子育て支援に関する電話相談等を行う 〈事業名〉緊急地域雇用創出特別基金事業(管轄 国．府．市)
⑭保育ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 委員会	● 保育ボランティア講座 ● 保育ボランティア事業	〈内容〉子育てOH!えん・だん「保育ボランティア」講座〈助成金〉キリン福祉財団 〈内容〉西成区内外の各種保育付講座等の保育ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動(ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱすみれ)
⑮子育て ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ	● 子育て情報誌の発行	〈内容〉子育て支援や虐待防止に関する情報誌「Mama’ｓうぉいす」の編集 と発行(2004 年3 月)　編集ボランティアひまわり
⑯　〃	●「産みたい あなたへ」発行	〈内容〉10 代で子どもを産んだお母さんたちから、今からがんばって産もう としている10代のママさんたちへ
⑰事務局 ⑱　〃 ⑲　〃	● 広報宣伝	〈方法〉親のクチコミ．ハギッズ．ＨＰの活用．各種広報紙の活用
	● 組織づくり．他組織連携	〈各種ﾈｯﾄﾜｰｸと連携〉区社会福祉協議会．区主任児童委員会 区児童虐待防止・子育て支援連絡会議．区社会福祉施設連絡会等
	● 財　　政	〈助成金〉区社会福祉協議会(00～)．区善意銀行(02～)．独立行政法人福祉医療機構(01．04) 府善意の箱事業委員会西成支部(02～)．ｷﾘﾝ福祉財団(04～)、 緊急地域雇用創出特別基金事業(03～)．家庭教育支援総合推進事業(04)
⑳　〃	● 会　　議	〈全体会〉総会含め年３～4 回〈幹事会〉役員会．毎月開催〈事務局会議〉随時 〈事業別専門委員会〉随時　〈あい・ｅｙｅ・ネット〉毎月開催

●２００４年度　事業報告

１．全体会・幹事会・委員会の開催

２００４年度は、全体会もしくは幹事会を月１回（第２木曜日午後）の予定で開催し、ネットの運営を行ないました。幹事会はオープンとし幹事以外の参加も呼びかけました。各種委員会は、活動にあわせて随時開催しました。また事務局として、西成青少年会館２F に〈ネットルーム〉子育てネットの総合窓口としての役割を担って３年目を迎え、事業の進行に応じそれぞれの実務処理にあたりました。

①　全体会の開催

全体会は総会を含め６回開催　（内３回は子育ての集い実行委員会を兼ねて開催）
（内１回は後半に児童虐待防止　実務者研修会開催）

5 月 20 日(木)	総会(西成青少年会館) 第 3 研修室	31 団体 36 名参加	2004 年度事業報告、2005 年度事業計画 子育て支援員事業、役員改選、予算案討議
9 月　9 日(木)	全体会(西成青少年会館) ネットルーム	21 団体 24 名参加	前期の活動報告、後期の活動計画 新加盟団体「市立幼稚園」の紹介 児童虐待防止　実務者研修会＜第3回＞
12 月 9 日(木)	全体会(西成青少年会館) ネットルーム	17 団体 18 名参加	子育ての集い企画（第１回実行委員会） みにみにフリーマーケット報告、ＭＹ　ＴＲＥＥ報告
1 月 13 日(木)	全体会(西成青少年会館) ネットルーム	25 団体 27 名参加	子育ての集い実行委員会(第 2 回) すみれ中級講座開催告知
2 月 10 日(木)	全体会(西成青少年会館) ネットルーム	19 団体 21 名参加	子育ての集い実行委員会(第 3 回) 各担当･役割分担最終確認
3 月 10 日(木)	全体会(西成青少年会館) ネットルーム	18 団体 21 名参加	子育ての集い反省会、次年度計画 中高生のからだと心、性　どう考える？シンポジュウム開催報告

②　幹事会の開催

幹事会は、全体会開催月を除き月１回定例開催／今年度５回開催
（内４回は後半に児童虐待防止　実務者研修会開催）

6 月 12 日(木)	幹事会（西成青少年会館） ネットルーム	16 団体 18 名参加	事業別専門委員会活動計画 新加盟団体「ラポール」の紹介
7 月 10 日(木)	幹事会（西成青少年会館） ネットルーム	19 団体 24 名参加	新加盟団体「ハート･クラブ」の紹介 児童虐待防止　実務者研修会＜第1回＞
8 月 7 日（木）	幹事会(西成青少年会館) ネットルーム	22 団体 26 名参加	子育て実習の会、 子育てサークル委員会 報告　フリマの参加者募集の呼びかけ 児童虐待防止　実務者研修会〈第 2 回〉

10 月 9 日 (木)	幹事会 (西成青少年会館) ネットルーム	26 団体 26 名参加	フリマ各担当･役割分担最終確認 児童虐待防止　実務者研修会＜第 4 回＞
11 月 13 日(木)	幹事会 (西成青少年会館) ネットルーム	22 団体 23 名参加	フリマ反省会、子育て実習の会報告 西成区地域福祉アクションプラン策定推進委員会が発足 児童虐待防止　実務者研修会＜第 5 回＞

③　各種委員会の開催

2004 年度は、事業別に１３の専門委員会を作り、ネットの事業をすすめてきました。
各専門委員会は、事業の企画運営に合わせて随時開催し、幹事会、全体会に提案・報告し、事業実施の中心となって活動してきました。5 年目の活動となった委員会は、活動が活発なところとこれまでの活動で一定の役割を果たし今後の方向を検討しているところなどが出てきた事を踏まえて、2005 年度は、諸会議の編成・専門委員会に変わり各部会の設置
等を現在編成調整中である。

(表) わが町にしなり子育てネットの事業と専門委員会

２．子育て交流会（あい･ｅｙｅ･ネット）の開催

子育て交流会は、ネット定例の全体会(または幹事会)に代わって、ボランティアや子育て中の母親・広く一般の子育てに関心をお持ちの方々の交流・意見交換の場を目的とし、２００２年度より＜ミニ会議＞という名称で実施しているもので、２００４年度５月には、より多くの方に親しみを持って参加していただくことを目的としてニックネームを公募。
〈あい・ｅｙｅ・ネット〉という名称にリニューアル。毎月主に第３木曜日：西成児童館において定期的に開催した。（活動内容の詳細はＰ３９~Ｐ４０）

回	月日	参加者数	内容	ゲスト
第 15 回	4 月 15 日(木)	大人 20 人・幼児 7 人	防犯について	吉田　英子氏
第 16 回	5 月 27 日(木)	大人 13 人・幼児 2 人	ネーミング・年間計画	
第 17 回	6 月 17 日(木)	大人 10 人・幼児 5 人	子育てネットってなぁに	小掠　昭氏
第 18 回	7 月 15 日(木)	大人 17 人・幼児 8 人	救急救命普通講座	西成消防署
第 19 回	8 月 26 日(木)	大人 33 人・幼児 26 人	ママによる幼・保説明会	
第 20 回	10 月 21 日(木)	大人 12 人・幼児 14 人	育児について(フリートーク)	
第 21 回	11 月 18 日(木)	大人 10 人・幼児 7 人	こどもの里特集	荘保　共子氏
第 22 回	12 月 16 日(木)	大人 5 人・幼児 0 人	阿倍野防災センター見学	
第 23 回	1 月 20 日(木)	大人 16 人・幼児 14 人	子育ての集い(ディスカッション)	
第 24 回	2 月 17 日(木)	大人 14 人・幼児 12 人	子育ての集い(バルーン練習)	
第 25 回	3 月 17 日(木)	大人 5 人・幼児 1 人	茶話会	

３．子育ての集いの開催

「子育ての集い」は、わが町にしなり子育てネット発足の契機となったことから、中心事業としてネット全体で取り組んできました。今回で 6 回目となった「子育ての集い」は 2005 年 3 月 2 日（水）区民センターで実施し、幼児とその保護者、関係者を含め 400 人を超える人たちが集まり、参加者の交流を深めるとともに、ネットの活動を地域の人たちや関係者をはじめ多くの団体や行政にアピールすることができました。

2004 年度から、ふれあい喫茶コーナーなど新しい企画も試され、参加者にはとても好評で多くの方が集う場として、出会いの場としての役割がより柔軟な形で行われたように思います。また会場設営をはじめ、フリーマーケットの出店準備やサークルのお母さん達が中心となったバルーンの飾りつけを前日から行ない多くのスタッフが参加、ネット加盟の施設や機関、サークル等の人たち同士の結びつきもより深めることができました。

《第６回子育ての集い》

◆実 施 日：２００５年３月２日（水）　　１０時～１２時
◆会　　場：西成区民センター
◆参 加 者：450 人
《保護者 148 人、子ども(幼児)161 人、スタッフ・ボランティア 102 人、来賓 39 人》
見学者・来賓：　西成区長、区社協会長、行政関係者、関係団体など
◆実施内容：わいわいパンダゾーン（遊びのコーナー）、子育て相談・紹介コーナー、レッツダンス
リサイクルコーナー、お楽しみゾーン（手作りおもちゃ、手遊び、手品、人形劇
絵本コーナー、パネルシアター、ペープサート他）

４．フリーマーケットの開催（リサイクル）

第３回目を迎えたフリーマーケット。開催に際しては、関係機関やボランティアの方々、参加する人たちがリサイクルを通してよい出会いの場を提供できるように全６回の実行委員会を（反省会を含む）実施し、２００４年度１０月３１日（日）西成区民センターで開催されました。

※詳しくはＰ４１～Ｐ４４を参照

５．　委員会の活動報告

①　サークル委員会

● サロン0･1･2の取り組み
実施日:毎月第３火曜日　午前10:45～11:30
場所　:玉出西公園
参加者数(のべ人数):保護者　94人　　子ども　100人

今年度は場所を玉出西公園に移し、親子で楽しむ遊びの提供や親同士の交流、子育てに関する相談や情報提供の場としてサロン0･1･2を開催してきました。センターや各子育て支援機関から遠い南エリアでの子育ての集いの場として、参加者の輪が広がっています。

また１月にはサロン0･1･2の常連参加者が、「自分達の力でサロンを･･･」と、数組の親子がリーダーと

なり玉出地域の親子の集いの場(「はぴねすキッズ」)を立ち上げました。立ち上げから運営にいたる相談やアドバイスなど支援しながらも、親たちのエンパワーメントが発揮されました。サロンの取り組みが、親同士をつなげ、親の力を引き出すきっかけになり、地域の子育て力を高めていけたらと思います。

サロンの場所については、室内･外、地域･親のニーズを探りながら今後も引き続き検討していきたいと思います。

● プール交流会

2004 年度は、7 月 21 日（水）わが町西成子育てネットに加盟するサークルや保護者会、子育て関連施設利用者の親睦と交流を通して、サークル委員会活動を一層活発化しようと西成青少年会館付設プールを活用して「プール交流会」を開催。当日は、晴天に恵まれ、親子あわせて２４人・スタッフ１８人が参加。プールでの注意事項を聞いたあと、サークルのリーダーを中心に準備体操「エビカニクス」をしました。プールの中では、水あそびや水中追いかけ玉いれなどでおとなも子どもも大喜びでした。参加したサークルの紹介も行い楽しい交流がはかれました。プール熱の流行や他の施設の行事と重なり参加人数が若干少なく実施時期を検討していきたいと思います。

● まちの保健室・相談事業のとりくみ

実施期間：毎月第４水曜日　午後１２時～４時
場　　所：訪問看護ステーション天下茶屋
相談利用者数（のべ人数）：親　１４人　　子ども　１５人

定期的な出張相談事業は初めてでしたが、近隣の方を中心に毎回１～2 組の相談がありました。相談者の中には子育て支援センターの利用者もいましたが、近隣で個別に相談できるという条件があい、継続して来所されていました。相談内容としては夫婦間での子育て観の違いの悩み､子どもへの関わり方への不安､子どもの泣き声に苛立ち叩いてしまうなどがありました。母親ひとりが抱え込んで深刻に悩んでいる状況があり、１件に数時間の相談となりました。乳幼児をもつ親子の場合、近隣に気軽に相談できる場が必要とされており、今後も看護協会の協力を得て、相談事業を続けていきたいと思います。

②　子育て講座委員会

子育て講座（子育て実習の会）は、前期・後期に分けて講座を実施しました。
前期は３回の連続講座として、公立保育所・私立保育園・保健センターで、後期は絵本講座を図書館が担当してそれぞれで講師を受け持ちました。また、一時保育を保育ボランティアの方中心に行ってもらいました。

子育て実習の会(子育て連続講座)午前10時～11時(3回合わせて参加費500円)
前　期　第1回目　6／11(金)　「親子で楽しいふれあい遊び」
場所　西成トモノス 2F
担当　公立保育所
参加人数　(18 組)　申し込み数(22 組)
保育スタッフ (22 名)
感想　・家ではなかなか向かい合って手遊びなど、できないので、とても充実した時間をすごせた。
・雨のため、参加を迷ったが、来てよかった。

第2回目　6／25(金)　「簡単な手作りおもちゃ」
場所　西成トモノス　2F
担当　私立保育園
参加人数　（ 10 組）　申し込み数（ 22 組）
保育スタッフ （ 26 名）
感想　・少し手を加えて本にすることにより、喜び方がこんなに変わるんだなーと実感した。 ・作るだけでなく、その時に指導してくれた保育士にいろいろな相談できる時間がありよかった。

第3回目　7／9(金)　「子どもが喜ぶ手作りおやつ」
場所　西成区役所
担当　保健福祉センター
参加人数　（ 14 組）　申し込み数（ 22 組）
保育スタッフ （ 11 名）
感想　・小さな子どもにも食べさせやすい簡単なおやつでよかった。　・初めて、おばあちゃん以外に子どもを預けて心配だったけど、大丈夫だった。

後　期　絵本講座
10／29 (金)　子育てに絵本を　[読み聞かせのすすめ]
場所　西成区民ホール一階　会議室
担当　西成図書館･絵本ボランティア
参加人数　（ 12 組）　申し込み数（ 19 組）
保育スタッフ （ 6 名）
感想　・とても分かりやすくソフトな語り口で話され、楽しく参加することができた。

③　子育ての集い委員会

1．子育ての集い実行委員会は、全体会の中で行い、反省会を含め 3 回開催

2004 年 12 月 9 日（木）	子育ての集い企画（17 団体 18 名参加）
2005 年 1 月 13 日(木)	内容決定（25 団体 27 名参加）
2005 年 2 月 10 日（木）	最終打ち合わせ（21 団体 23 名参加）
2005 年 3 月 1 日（火）	会場準備（下記参照）
2005 年 3 月 2 日（金）	「子育ての集い」実施（下記参照）

●３月１日（火）
・バルーン飾りつけ準備　（１０時～１２時）　約３０名参加
・前日搬入、会場準備　（１３時～１５時）　約５０名参加　（３８団体）
●３月２日（水）
・当日準備　（スタッフ　９時３０分集合）・子育ての集い開催　（１０時～１２時）
・後片付け、搬出　（１２時～１３時）
・参加者総数　約 488 名
（内　訳）　大　人（保護者）　148 名
子ども（幼　児）　161 名
（小　計）　309 名　（前　年　331 名）
スタッフ　140 名　（66 団体中：名簿記載者　140 名）
【来　賓】　多田西成区長、西成社会福祉協議会 乾会長、中村事務局長　他
来　賓　39 名
注）スタッフ及び一般参加者の中には記載もれがあるので若干名増やして掲載

2. 各担当コーナーからの報告と意見交換

（良かったと思われるところ）

・今年度は、お楽しみゾーンが同じ会場に移った事により、全体的に一体感が生まれとてもよかったと思う。

・コミュニケーションの場としても、リサイクルの場としてもとてもよいと思います。

・喫茶コーナーが出来た事により、参加者がほっとできる場所が一つ増えたようでよかったです。

・例年に比べると穏やかな子育ての集いといった印象を受けました。

（反省点・今後の課題）

・タイムスケジュールの調整が難しかった。

・レイアウト（パネル等）のスペースがもう少しあっても良いと思った。

・スタッフと一般参加者の区別があいまいだった（名札の記入が統一できていない）

・スタッフの名前の記入方法をもう少し効率よく出来る方法を考えるべきでは

・会場の配置上、来られたお母さんとなかなか相談まで行かなかったので、もう少しいい方法はないものかと思う。

・相談している間子どもを見てくれたら助かる　・出入り口が（狭く）危険そうだった

3. 子育ての集いの目的とは？

・在宅の親子、引きこもりがちな親子に広く“子育てネット”を知ってもらう

・“子育てネット”の PR･交流の場所である為ネットの団結なくしては成り立たない

・普段から孤立している親に第３者が、声掛けをする意識を再確認してもらう

・「子育ち」と言う事を集いを通じてどこまでやってきたかと言うのがこれからの課題です。

～「第6回子育ての集い」アンケート集計結果～

＊参加者 大人：148名（うちスタッフ兼務8名） こども：161名　＊アンケート回答数：79名

↓

＊初めての参加：79名　2回以上参加：54名 他は無回答

1.　子育ての集いはどこで知りましたか？

・ハギッズ…31　・ホームページ…3　・メールマガジン…1　・ポスター…2　・知人から聞いた…19

・子育てサークル…10　・保育所（園）…2　・幼稚園　・学童保育所

施設（・西成児童館…1　・ほほえみルーム（西成子育て支援センター）…2　・聖化保育園子育て支援センター…4　・トモノス西成…3　・保健福祉センター…1　・図書館…1　・西成青少年会館　・今池こどもの家…1　・こどもの里）

・その他（ 保育ボランティアグループすみれ…1 ・ 主任児童委員…1 ・ 広報誌…1）

2.　子育ての集いに参加していかがでしたか？

とても楽しかった 49

- 子ども達の生き生きとした姿がよかった
- 大盛況でした。小さな子供さんが元気で友達と紙芝居などものがたりを聞いておられた。
- 着ぐるみさんが子供は気に入ったようです。
- たくさんの活動内容･手作りコーナーの充実

まあまあ楽しかった 29

- リサイクル品がみれた
- 子供が楽しんでいたから良かった。
- あまり楽しくなかった ・ 期待通りでなかった は いずれも 0

3.　お子さんの反応はいかがでしたか？

とても楽しんでいた　　47

- アンパンマンやミッキーの着ぐるみ
- アンパンマン大好きなので着ぐるみに大喜びでした。
- 大きい乗り物･ボールプール
- 乗り物がたくさんあって喜んでいた。
- おもちゃでたくさん遊んだ。

まあまあ楽しんでいた　22

あまり楽しめなかった　2

- 人が多くてなじむのに時間がかかった
- ねてた
- 小さいので反応はなかった

4.　どのコーナーが楽しかったですか？（いくつでも）

わいわいパンダゾーン 13（おもちゃ 32 ・ 手作りおもちゃコーナー 12 ・ 絵本コーナー 7 ）

お楽しみゾーン 14（エプロンシアター 8 ・ 人形劇 8 ・ リズム遊び 20 ・ ふれあい遊び 9 ）

ふれあい喫茶コーナー 6

その他 乗り物の車 1 ・ ダンス 2 ・ 押し花 1 ・ ﾘｻｲｸﾙ 4

5.　相談コーナーについて

①相談コーナーにはいらっしゃいましたか？　　行った 11 ・ 行かなかった 63

②どのブースにいらっしゃいましたか？

子育て支援センター 7 → とても良かった 5

芦原病院 3 → とても良かった 2

児童相談所 1 → とても良かった 1

保健福祉センター 1 → とても良かった 1

公立幼稚園 2 → とても良かった 1 ･まぁまぁ良かった 1

たんぽぽ 1 → とても良かった 1

家庭児童相談室 ・ ﾄﾗｲ！あんぐる ・ めばえ塾

6.　リサイクルコーナーについて

･いい物が買えてよかった 40　　･いい出会いがあってよかった 11　　･期待通りでなかった 6

- せまくて（ブースのテーブルがひっついていたので）人が集中して見にくかった
- 店が少なかった
- もっとお店があっても良かったと思います。
- 今年は無料コーナーがなかった(;_;)

･その他

- 見る余裕がなかったので残念！

7.　西成区児童虐待防止･子育て支援連絡会議について

はじめて聞いた 35 ・ 聞いたことはある 33 ・ 詳しく知っている 4

8.　最後のレッツダンスはいかがでしたか？

とても楽しかった 42 ・ まあまあ楽しかった 17 ・ 楽しくなかった 1 ・ 参加していない 10

9.　“わが町にしなり子育てネット”では、これからもみなさまに楽しんでいただける企画を考えていきたいと思っています。どんなことでも結構です。ご意見をお寄せ下さい。

- 今度は子供と来たいです。
- また楽しい企画をお願いします
- 毎月 もしくは 週一回してほしい!!

- 休日に、もっと長い時間して欲しい(午前中だけだと子どもが寝てしまって行きにくい)
- どんどんこの様な催し物をやってほしい。できたらもっと長い時間して欲しい。とても楽しかったです。ありがとうございました。
- こんな機会を増やして欲しい！　●年に何回か開催して欲しい
- 毎年楽しみにしています！　● また開いて下さい　●楽しかったです。また来年もやってください。
- もっと交流の場が欲しい 友達ができるように　● ありがとうございました
- この間のアクションプランの時の幼稚園児の絵画展が大変よかったと思います
- 今回のフリマ配置やダンスの時間など良かった
- 違う地域に住んでいますが活動を参考にしたいと思います
- 区外ですが、また来たいと思いました
- もっと多くの人に広めるため、集いのちらしを健診などで配布すればいいのに、と思う。
- ちらしは写真入りのほうがインパクトがあるのでは？
- スタッフ同志の声かけがもっと欲しかった（「ありがとう！」「お疲れさま」など）　（ボランティアの方より）

④　ミニコミ紙ハギッズ編集委員会

ボランティアグループさくら組を中心として、「いつでもどこでもみんなで子育て」という子育てネットの主旨実現に向け、一方的な情報提供ではなく、紙面を通したコミュニケーションの場作りを目的として、２ヶ月に１回、計６回のミニコミ紙を発行しました。

《発行部数》　２７，０００部（１回につき４，５００部）
《発行回数》　５・７・９・１１・１・３月　計６回
《体　　裁》　Ａ４サイズ（Ａ３二つ折り）　４ページ
《編集状況》　ミニ編集会議→版下作成→編集委員会→版下作成→校正→印刷→
→発送準備・発送→発行

《発行状況》

２００４．４．６	第２２回　編集委員会
２００４．５．１	ハギッズ第２１号発行
２００４．６．１６	第２３回　編集委員会
２００４．７．１	ハギッズ第２２号発行 （第２回フリーマーケット参加者募集要項折り込み）
２００４．８．６	第２４回　編集委員会
２００４．９．１	ハギッズ第２３号発行
２００４．１０．１５	第２５回　編集委員会
２００４．１１．１	ハギッズ第２４号発行
２００４．１２．１０	第２６回　編集委員会
２００５．１．１	ハギッズ第２５号発行
２００５．２．８	第２７回　編集委員会
２００５．３．１	ハギッズ第２６号発行

ハギッズ発行にあたって

わが町にしなり子育てネット、ミニコミ誌ハギッズは 2001 年 1 月号から 2 ヵ月に一度　奇数月に発行し、この 5 月で 27 号を発行するに至りました。子育て中のお母さん方にいろいろな情報が伝わるようにと考えてきました。

イベント情報はもちろんのこと、月に一度行われている、お母さんたちの交流会を兼ねた「あい、eye、ネット」のようすや、「親子で一緒に」「公園に行きましょう。Let`s go」を定番として掲載していきました。

悩み相談などの投稿に対しては、相手の思いを考えて、メンバー全員で話し合い、何回も読み返し、書き直しながら原稿を作成しています。また、昔からの言い伝えを豆知識として載せ、「わたしのお気に入り絵本」も加わりました。

これからも、読者の声をどんどん取り入れていき、充実したものにしていきたいと思います。

中村、相原、鈴木

⑤　マップ作り委員会

ハギッズの公園に行こうのコーナーに、子育てマップの補完として区内の公園中心にリニューアル情報や未記載公園の記事を投稿してきた。

⑥　ホームページ編集委員会（たんぽぽ）

平成１６年度　―活動報告―

1.　ホームページ委員会の活動について

１年間の活動を振り返ってみて本当に充実した活動をしてきたことに気がつきました。
今までの活動は、全力疾走で走りつづけていたように思います。ホームページだけでなく、他のボランティアにも参加しましたし、メンバーのほとんどが自分たちの活動に追われていたように思います。少しでも子育て中の方にお役に立つ情報を届けていきたいという思いで前進してきましたが、これからはもう少しスローペースで楽しみながら活動を続けてきたいと思います。

これまでの活動を通して多くの方と新しい出会いがあり、子育てネットの皆様にも声をかけていただけるようになり感謝しています。

活動内容

≪ホームページの内容について≫

- ホームページをリニューアルしました。
- 仲間とチャット、ボランティアグループ紹介、公園へいこうを新しく増やしました。
- 誕生日登録もできるようになり、メッセージの書き込みコーナーも出来ました。
- 小椋コラムをブログに変え、書き込みができるように変更しました。
- ミニ会議は、あい・ｅｙｅネットに名称を変え、場所を児童館に移しました。メンバーも積極的に参加し、ページの作成公開しました。
- 機関紙ハギッズ（奇数月発行）のホームページ版を更新しました。
- 保育所であそぼうは保育所・幼稚園で遊ぼうにタイトルを変え、保育所と幼稚園両方の情報が見られるようにしました。
- リンク集の充実
- 「おばあちゃんのひとりごと」は、経験豊かな先生の暖かい言葉がお母さん達に喜んで頂いています。
- 子育てサークルは、写真と活動内容を更新し、メンバーの募集をしました。
- ネットの活動には、子育て実習の会、西成だいすき運動会、絵本の読み聞かせ、これまでのミニ会議を増やしました。
- 常に掲示板の管理に目を向け、書き込み者への返事や意見の交換に勤めてきました。
- メーリングリストで編集委員同士の意見交換をし、技術指導、情報交換、作業進行状況報告など行

っています。

《編集委員会の開催》（　西成児童館にて）

４月２７日（火）　第１回　開催
６月　４日（金）　第２回　開催
７月　２日（金）　第３回　開催
９月　３日（金）　第４回　開催
１０月　７日（木）第５回　開催
１１月　４日（木）第６回　開催
１２月　３日（金）第７回　開催
１月１４日（金）　第８回　開催
２月１０日（木）　第９回　開催

《講座～託児付～》

ホームページたんぽぽのメンバーが講師をつとめ、3/8．3/25．3/30 にホームページビルダーを使って、初心者向けのホームページ作成講座を行いました。

《広報活動》

（１）ホームページの新しいチラシを作成し、ホームページを多くの方に見ていただけるように子育ての集いで参加者に届けました。
（２）子育ての集いでは、前年と同じようにホームページをスクリーンで公開し、興味を持っていただいた方に掲示板の書き込みや、わが町にしなり子育てネットについて説明しました。

⑦　虐待防止ネット委員会

（１）児童虐待防止のための講演会．研修会

Ⅰ　「こどもの虐待防止専門職研修」講演会の開催
開催日時：平成１６年１０月８日（金）午後２～４時半
開催場所：大阪市立西成区民センター
参加人数：１０９人（大阪府.市の各専門機関．施設等の虐待防止担当者）
講　　師：森田ゆり氏（エンパワーメントセンター主宰）

Ⅱ　「性虐待の予防とこどもの回復」講演会の開催
開催日時：平成１７年１月２８日（金）午後６時半～８時半
開催場所：大阪市社会福祉・研修情報センター
参加人数：１４０人
講　　師：森田ゆり氏（エンパワーメントセンター主宰）
保育担当：保育ボランティアすみれ

上記の講演会開催のためチラシを作成し、下記に配布
府市児童相談所．各区の家庭児童相談室．府市の保健センター．区内小中学校・保育所等．虐待防止関係機関．団体．子育てサークル等

Ⅲ　実務者を対象とした児童虐待防止研修会を開催
開催日時：平成16年7月8日.8月19日.9月9日.10月14日.11月11日.全５回
開催場所：大阪市立西成青少年会館
参加人数：延べ104人（西成区内の保育所等の虐待防止実務者）
講　　師：児童関係専門職３名
研修内容：改正児童虐待防止法．虐待防止ソーシャルワーク他

子どもや自分を傷つけている、虐待をやめたい親のための回復支援プログラム『MY　TREEペアレンツ･プログラム』の実践

「わが町にしなり子育てネット」は、2000 年の設立以来、子育ての主役である親自身の活動を中心に、裾野の広い職種間連携でさまざまな子育て・子育ち支援の取り組みを発展させてきた。

その成り立ちから、

虐待防止分野における４つの領域

第１次防止＝早期発見・予防

第２次防止＝介入

第３次防止＝治療・ケア

第４次防止＝調査・研究　　のうちでも、当初は第１次防止の予防領域の活動が主軸であったが、3 年目の 2003 年度より**第３次防止領域においても子どもや自分を傷つけている親、虐待・体罰をやめたい親への治療的回復支援「ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラム」を官民他職種間の協働で運営してきた。**2004 年度も近畿圏に広域募集を行い、2003 年度同様、グループメンバー全員が最後まで継続参加、終了することができた。

事業成果は初年度の厚生労働省児童家庭局母子保健課、児童虐待防止対策室のききとりを始め、全国の虐待防止関連分野の注目を受けた。2 年目に入り、このプログラムの特性が少しずつ知られ、大阪府下を中心に紹介が得られるようになってきている。

Ⅰ．事業の目的と内容

1、MY　TREE　ペアレンツプログラムについて

1) MY　TREEペアレンツプログラムとは

これまで日本には、虐待予防の子育て支援プログラムはあっても、介入を必要とする親を対象としたものがなかったことから､目的と対象を明確にして 森田ゆり氏が開発されたグループ･エンパワメントの手法による psyco educational (心理教育的) な回復支援プログラムである。

2) MY　TREEペアレンツプログラムの対象者

子どもを虐待している親の背景は個別さまざまであるため、必要な支援や治療・ケアの特性を考える上で、森田ゆり氏は親のタイプを４つに分けている。その中で、ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラムは、次の人たちに限定してグループ構成される。「入院を必要とする重篤な精神疾患はないが、子育て不安、孤立、生きること全般への自信の無さ、伴侶との関係の悪さ､PTSD 症状､未解決の傷つき体験などを背景に子どもを虐待している親。虐待行為の自覚の有無に関らず援助に拒否的でない、もしくはなんらかの強制力の元では拒否的ではない。」

プログラムの目的は **子どもへの虐待を終止する**
目標は **セルフケア** と **問題解決力** を参加者が身につけること。

具体的には、参加者が：

- 安心して、自分、子ども、家族の問題を語り、帰属感をもてる場を持つ
- 呼吸法、リラクゼーション，単純な太極拳動作などを学ぶことによって、身体、思考、感情のハーモニーと自己コントロール法を得る
- 自分について新しい気づきを得る
- 子どもが内に持つさまざまな力に気づく
- 子どもにダメージを与える子育ての習慣（体罰、脅し、いじめ、侮蔑、過剰期待、過剰保護）を脱学習する
- 体罰に代わるしつけの方法、こつ、アイディアを学び、練習する
- 感情表現、コミュニケーションスキルを学び、練習する
- 虐待、体罰による子どもへの関りを意識的に終止する

回数と期間	１５回　6ヶ月（毎週１４回＋３ヵ月後のリ･ユニオン１回を基本）
グループ成員	１０名前後の固定メンバー。 完全クローズで行なわれ、厳密な守秘を始めとした約束事がある。
所要時間	2時間のセッション　＋　０．5～1時間の個別フォロータイム
期待できる効果	自分と子どもをよく知り、受け入れていく経験、気持ちを聴き・話すコミュニケーション力をつけ、ストレスをコントロールするスキルを持つことで、身体的･心理的暴力によらない子どもとの関わりを得る。
ワークの内容	2時間のセッションで、参加型の「学ぶワーク」＋「じぶんを語る」 簡易な気功（太極拳）呼吸法リラクゼーション アサーティブネス練習
終了後に行うプログラム	ご本人の必要性に応じて個人カウンセリング、アサーティブネス訓練、MCG や個別課題の自助グループなどへの参加を勧めることもある。
備　考	「わが町にしなり子育てネット」の官民の参画団体の特性をいかし、公的な子育て支援事業、虐待防止対策事業とも連携して、無料の保育と次のセッションまでの緊急TEL・カウンセリングの場を確保してある。

3) MY　TREEペアレンツプログラムの進行

グループメンバーの構成

スタートから終了まで、途中参加なしの 10 人前後の固定メンバーで行なう。

メンバーの対象特性を限定してグループ構成することが重要であるため、事前の面談を必須とする。親子分離中のケースなど、虐待の深刻度の高い人から優先的に参加してもらい、「子育て不安はあるが、虐待・体罰はない」というケースや、社会的・経済的な問題から生活破綻に陥っているケースなど､他の支援や治療が優先されるケースを混在させない。

ファシリテーターの役割

プログラムは森田ゆり氏による規定の約 100 時間の研修を受けて養成され、実施を承認されたグループ、３人のファシリテーター（2 人のグループもある）によって実践される。

毎回のセッションの構成

参加者全員にとっての安心の場をつくるため、完全クローズな会合と 厳密な守秘をはじめとする約束があり、約束事は毎回必ず始まりのときに一つ一つ説明しながら、確認する。

前半《学ぶワーク》

１回２時間のうち最初の１時間は、一方的な講義形式ではない参加型の〈学ぶワーク〉を行う。参加者同士がペアで話し合ったり、さまざまなワークを通して、内的な「気づき」と「学び」を得、誤ったしつけの習慣の「脱学習」をもたらす。教本として、「しつけと体罰」「気持ちの本」（ともに童話館出版　森田ゆり著）を使用する。

後半《自分をトーク》

後半１時間は、参加者の時間を等分にして数分間の〈自分をトーク〉の時間を持つ。始めは言葉にできない場面も多々あるが、毎回の積み重ねを通して、ファシリテーターのサポートのもと、次第に、これまで誰からも受けとめられてこなかったために、自分でも受容できなくなった「私」が語られていく。他人の痛みに共感し、自分の痛みに涙してくれる人と出会うことで、自己否定的な孤立感は連帯感、所属感にとってかわられる。

〈自分をトーク〉は、言いっぱなし、聞きっぱなしのフリースタイルではなく、「MY TREEペアレンツプログラム」の実践者としてのスキルを訓練されたファシリテーターによって､参加者の、その時々に立ち現れた生の言葉や感情表現に対する支持的態度とともに、ごく短い適切なコメントが返される。これが一つの特徴でもある。参加者が安心でき、尊重されたと感じられるとき、内的な力を揺さぶられて起こるグループ全体の力動を活用し、ゴールに向けていく。

2、「MY　TREEペアレンツプログラム」ワーク中の保育

「MY　TREEペアレンツプログラム」の保育の目的は、第一に子どもの安全と安心を守ることである。そして、全回を通して“この世界には信頼をよせられる大人たちがいるのだ”という基本的な信頼感を、子どもたちに体感してもらえるように支援することができる。

「MY　TREEペアレンツプログラム」は、親子の同時観察やプログラムそのものの連動は行わない。

その理由は、「だめな母親」「自分には価値が無い」との信念を持たされてしまった親たちが「いい親になること」へのとらわれを気にせずに、自分自身を見つめることが必要だからである。

保育場所もワークとは別の場所に用意し、ワークを行なっている部屋に参加者の子どもが入ってきたり、ワーク中に子どもの声などに気をとられたりすることのない環境をつくる。

II．2004 年度　事業の実際

実施体制　　「わが町にしなり子育てネット」（官民の特性を生かしたネットワークによる職種間連携）

事業経費　　「独立行政法人　福祉医療機構」助成金により実施

プログラム運営（ワークチーム）　芦原病院　看護師・伊藤悠子　助産師・井田艶子、松浦洋栄

一時保育担当（保育チーム）　西成子育て支援センター保育士　片岡ルリ　豊田久美子

わかくさ保育園保育士　加治屋素子

子育て支援員　川辺康子　高岩薫

2003 年度子育て支援員　井上美千代

トライあんぐる（ひとり親家庭支援員）　松下敦子

1、保育の実際

2004 年度も参加者の募集に難渋し、8 月 31 日の実施を目前にした 8 月 21 日（朝日新聞）と 24 日（読売新聞）の報道によって連日集中の面談を重ねて参加メンバーが決定したことから、保育を要する子どもの人数や年齢、特性の把握も直前であった。

保育体制

チーム編成は、子育て経験をもつ子育て支援員、昨年度の「MY　TREEペアレンツプログラム」の保育経験者、保育士７名のチームで１：１を原則とした。

保育時間はプログラム前後を入れて 13：00～16：30 を基本としたが、遠方から参加する保育参加者も多く、子育て支援センター到着後の授乳や、親子で昼食を取られる方も複数あったこと、子どもの体調により、保育を要する子どもがその都度固定にはならなかったため、当日の保育希望者の確認をふくめ、子育て支援センターのスタッフは、毎週午前中からの待機が必要であった。16：30 以降参加者を見送った後で、毎回終了後にプログラムの実践者と保育チームのミーティングを行い、情報や意見をチーム全体で共有していった。

保育場所

西成子育て支援センターの移転によって、前年度に比べてワーク実施場所の青少年会館から保育場所がやや遠くなり、雨天の日などは往復の時間が乳幼児親子の負担となった。

道に不慣れな開催当初は、送迎のサポートも行うことで、距離の遠さを補う場面もあった。

また、2004 年は大型台風が 2 回近畿を直撃したが、不安定な天候の中でワーク当日を迎えた日にも親子は休まず西成に集まってこられた。そうした時などは、官民協働ネットワークの機能をフルに使って迅速に対応、「わが町にしなり子育てネット」参画団体に協力を依頼して、駅まで数組の親子をワゴン車に乗せて送り届けることができた。

スタッフはすべて普段の仕事をしながらの兼務であり、保育場所の子育て支援センターでは日常的なセンター機能、電話対応など同時に行いながらのＭＹ　ＴＲＥＥ保育であったが、センター長を始め、スタッフ間の多大な協力の結果得られた成果であった。またセンターを併設している松の宮保育所の理解が厚く、恒常的な協力・管理体制が行き届いていたため、広い所庭・砂場の利用もでき、活動的に走り回る子どもたちや、普段自宅では外遊びなどができない子どもにも、快適でたのしめる空間を提供することができた。

保育実践

今年度は、参加者の住まいが保育所入所激戦区のため未入所の子どもが複数、哺乳中の乳児たちに加えて、エネルギーのかたまりのような活動的で力のコントロールが難しい 4 歳男児らが保育を希望されたこともあり、７名のスタッフの個性と保育者の力量がいかんなく発揮された年となった。わかくさ保育園からの協力、実践力が生かされた点でもある。

保育においては、安全を図る点が第一でありながら、事故防止の観点の一方で、禁止が多くなった場合に翌週の外出を子どもがしぶったりすれば、ワークの欠席や遅刻につながり、親の変容に支障がきたすこともある。保育グループはそうした予想をされて、子どもたちがたのしく遊べるように様々な保育の工夫、配慮がなされていた。

子どもたちも終了後のアンケートにみられるように、毎週、西成子育て支援センターに行くのを楽しみに待つようになり、人前ではいつも「言うことをきかない子ども」をたしなめ、叱る場面ばかりで疲れていた親も、次第に保育士に対して育児に関する質問や相談が出るようになっていた。

保育者たちは、子どもへの援助と同時に、参加者たちがワークに通いつづけることへの、直接的なサポート機能を果たしていた。

（資料②参照；「ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラムの保育を利用された方のアンケート」から。および、「ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラムの保育にたずさわって」保育チームのふりかえり、感想文）

連続ワークの最終日に見送ったバスの最後尾で、歯を食いしばり、いつまでも手を振っていた 4 歳の子ども。彼はその日が別れの日だと知っていて、泣くのをこらえていた。そして 3 ヵ月後の同窓会。親子の表情も変化し、母親は、駅まで距離のある道を親子で歩いて帰っていった。この幼い子どもの遠い記憶のどこかに、電車やバスを乗り継いで通った、どこか遠い懐かしい場所での 6 ヶ月間、自分を受けとめてくれた大人がいたということが、大切にしまわれているのではないだろうか。

2、事業運営のスケジュール

表１　スケジュール

（１）事業準備（2004 年４月～8 月）	
4 月	「まちの保健室」2003 年度報告と新年度協力依頼→　ネットの参画団体に加盟。
5 月	大阪府市関連機関、「わが町にしなり子育てネット」で事業説明、協力要請。
5～７月	プログラムの実務者の打ち合わせ、研修。　７月３日　前年度事業報告会：東京
6～7 月	行政の後援を受け、関連機関に受講者の募集と実施体制に対する協力要請。
6～8 月	参加者募集。ファシリテーターと関連機関の連絡調整、一時保育担当者会議。
（２）事業実施（2004 年 8 月～2005 年 3 月）	
8 月	電話インタビュー後、参加申し込み者との面談。
8 月	参加者と時間帯の決定および託児状況の把握，人材の確定。
8 月 31 日	「ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラム」毎週火曜日開始
10 月 8 日	児童虐待防止実務者研修と市民への啓発活動を兼ねた全体研修。
12 月 14 日	「ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラム」１３回目終了
12 月 10･11 日	ＪＡＳＰＣＡＮ　日本子どもの虐待防止研究会参加
3 月 1 日	「ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラム」リ・ユニオン
（３）事業成果の分析と評価（2005 年 11 月～2005 年 3 月）	
11 月 13 日	日本看護協会主催「全国子ども虐待予防対策交流会」で講演
２月	実践記録、参加者アンケートのまとめ　スーパービジョン
３月	独立行政法人　福祉医療機構（助成金）事業報告提出

3、参加者の特性

表２　紹介元別申し込み状況　　**（カッコ内は前年度の状況）**

		受講者／名	申込み／名	相談／名
保健師からの紹介	大阪市	0 （0）	0 (0)	1 （1）
保健師からの紹介	大阪府	2 (0)	2 (0)	3 (0)
家児相からの紹介	大阪府	0 （0）	0 （0）	1 （0）
保育所･支援Cから	大阪市	0 （0）	4 (1)	0 （0）
医療機関ケースワーカー	大阪府	0 (2)	0 (2)	1 (0)
当事者自身による	合計	9 (8)	20 (16)	
	うち朝日新聞	4 (7)	8 (15)	14
	うち読売新聞	3 (掲載なし)	5	
	その他チラシ見て	2 (1)	7 (1)	
合　計		11 (10)	26 (19)	20

１）「MY　TREEペアレンツプログラム」申し込み時の参加者と子どもの年齢

参加者の年齢層は、10 代、20 代の若い世代は紹介、自分からの申し込みともになし。30 代が８名、40 代が 2 名、50 代が１名であった。40 代が多かった前年度に比べ、2004 年度の参加決定者は 30 代が中心であったが、年齢分布は比較的高い年齢層になっている。

表３申し込み時の参加者の年齢と子どもの年齢

(性別)

◎は、特に悩んでいたり大変だった子

親の年齢	子どもの年齢		
30 歳	7 歳 (男)	5 歳 (女) ◎	3 歳 (女)
32 歳	6 歳 (男)	4 歳 (男) ◎	2 歳 (女)
33 歳	4 歳 (男) ◎	7 ヶ月 (男)	
35 歳	8 歳 (女) ◎	5 歳 (男)	
35 歳	11 歳 (男) ◎	8 歳(男)	5 歳 (男)
35 歳	2 歳 (男) ◎	9 ヶ月 (男)	
36 歳	4 歳 (男) ◎		
37 歳	4 歳 (男) ◎	1 歳 (女)	
41 歳	14 歳 (女)	12 歳 (男) ◎	7 歳 (女)
48 歳	13 歳 (女) ◎	11 歳 (男)	
56 歳	29 歳 (男) ◎	17 歳 (男)	

子どもの年齢もばらつきがあるが、きょうだいのうち、特に困っていた子、直接の虐待、体罰が集中している子が 1 名だけというケースが目立っている。（ただし、それを見ている他のきょうだいにも影響、心理的な虐待であることはワークの中で学んでいく。）

参加者によるプログラム終了時のアンケートでは、「困っていたというより、最初の子という理由でした」というコメントや、当時の状況の説明と、「この子は全く悪くないです。」と、子どもが問題でなかったということをあえて付記された方が複数あった。

２）「MY　TREEペアレンツプログラム」参加者がかかえる問題の深刻度

・きわめて深刻　　（虐待，体罰、ネグレクトの繰り返し／分離中　　___5 名

・深刻　　（虐待、体罰、ネグレクトが断続的にある）　　___6 名

・回復途上　　（虐待、体罰、ネグレクトが過去にあった）　　___0 名

表４　ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラム開催状況

回	毎火曜日	プログラムの内容	参加人数	欠席理由	保育人数
0	8月 31日	グループ準備会、ミーティングの目的・ルール・身体ほぐし	11		6
1	9月 7日	安心な出会いの場①	10	台風18号	5
2	9月14日	安心な出会いの場②	11		5
3	9月21日	わたしのエンパワメント	11		6
4	9月28日	親と子のエンパワメント	11		5
5	10月5日	気持ちを聴く	10	義父危篤で帰省	4
6	10月19日	気持ちを語る	9	帰省保育所行事	3
7	10月26日	体罰の6つの問題	10	義父危篤で帰省	3
8	11月2日	体罰がもたらす親と子への影響	10	義父危篤で帰省	3
9	11月9日	体罰に代わる10のしつけの方法	11		3
10	11月16日	自己肯定感：否定的ひとり言の掃除	11		3
11	11月30日	子どもをほめる・自分をほめる	10	本人の風邪	3
12	12月7日	母親らしさ 父親らしさ	11		3
13	12月 14	人の力をかりる・ＭＹ　ＴＲＥＥ	10	子どもムンプス	2
14	3月 1日	同窓会（リ・ユニオン）・振り返りのワーク	9	保育所行事	5

10月12日は中間面接にて、保育2組3名（保育チーム2名）あり。

4、実施結果

事業展開で最も難渋した点は、初年度に引き続き、参加者の募集である。親たちは全員が以前からさまざまな相談窓口につながっており、ハイリスクであることを認識してかかわっていた専門職も少なくなかったと思われる。そうした場面で、親の不安な気持ちを受けとめ、「このプログラムは、あなたに向いていると思うよ。チラシを見てみますか？」と、適切な紹介に結び付けてくれた保健師たちによって、今回も２組の親子とＭＹ　ＴＲＥＥの出会いが実現している。いずれの参加者も紹介をしてくれた保健師に心から感謝している、と言われていた。

また、深刻度の高い親、親子分離中の方も初年度同様に、新聞を見て自ら申し込まれている。「虐待の親は、支援を求めない」という社会通念とは異なり、問題解決の方法を探しつづけて「ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラム」にたどりついた人たちは、さまざまな傷つき体験からの回復を求めていた。

参加の状況も、表４のように、国外への帰省のため４回の欠席を余儀なくされた参加者が１名（遠方からの帰国後、すぐ翌日から参加）あったが、全員がやむを得ない理由以外は休まずに最後まで継続し、終了している。

適切な支援、何よりもかかわる側の尊重の姿勢が伝われば、困難な状況にある親ほど、変わりたい欲求は強いということを、**MY TREEペアレンツプログラム**の参加者たちは示してくれている。「自分には価値がない」と思いこみ、死ぬことばかり考えていた人が、**「MY TREEは、これまでのじぶんの人生で初めて受容された経験でした」**と振り返る。

「わが町にしなり子育てネット」が、虐待に直面する親の回復支援プログラム**「MY TREEペアレンツプログラム」**に初めてとりくんだ2003年。初年度の参加者たちは、「私は大切な人です」というプログラムの根底にあるメッセージをかみしめながら、子どもとの関係にも変化が生まれ、プログラム終了後もなお、それは続いていると報告する。
「自分自身のケアのことなど、考えたこともなかった。それが、今は交友関係まで変わってしまった。人に合わせて気が向かない付き合いは淘汰され、本当に楽しめる友だちと時間をすごせるようになった。」等、驚くような日常の報告や家族のエピソードが伝えられる。プログラム終了後、２年目に入った初年度参加メンバーは、このように語られた。

「MY TREEが特別なのは、ワークが終わった後から、じぶんのなかに学んだこと、あの場に通った大事な時間が、染み入ってくることです。」

「MY　TREEペアレンツプログラム」 2004年度参加者申込状況およびワーク終了者
（カッコ内は前年度）

参加人数：　応募者__25 (19) 名　面接による参加者決定時の人数__11 (10) 名
＊申し込みは全員女性
終了人数：　開始時の人数__11 (10) 名　終了者__11 (10) 名
中途中断：　なし（なし）

III. 親支援プログラム実施における課題と提案

1、司法による、親に対するケア・支援プログラムへの参加義務づけが必要

こうしたプログラムを必要としている親たちに、誰（どの機関、どんな役割の人）が、どのような場面で、どのようなシステムのもとに情報提供できるのか？

児相本来の役割とは　厳しい状況の親と面談をしているのは、予防、あるいは介入の仕事にあたる機関である。虐待防止の中心的役割を担うのは児童相談所であるが、児相は、児童福祉法、児童虐待防止法に基づいて子どもを守るという最大の役割から、時に子どもの保護のために親との対峙もしつつ、親の受容によって行動変容を促すという矛盾する任を負うこともある。また虐待への対応だけが児相の業務内容ではなく、あらゆる複雑な問題が持ち込まれる。

改正児童虐待防止法においては、家族の再統合にむけた「親指導」の努力義務と、「都道府県知事が親に勧告することができる」と明記されたが、実際の運用上は児相に任されている従来から、何ら変わってはいない。

ケースワーカーの慢性的な過重労働　多忙な業務と、時には厳しい介入の際に公務災害のリスクも負う児相のケースワーカーが、個人の経験で親ケアも誘導することは、物理的に困難を極めあまりに過酷といえる。初年度、うつ状態をかかえて親子分離中、自らプログラムに参加されたある方は､｢児相のケースワーカーに子どもの引き取りのことを相談したくても、忙しすぎて電話は出られない。それでＦＡＸで送るのだけど、いま帰ってきました、という連絡が入るのが 21 時とかになって・・・、ゆっくり話そうと思える体調の日もあるけれど､タイミングが合わない｣と担当者のオーバーワークについて話してくれた。

早期発見、介入のあとは・・・？

虐待の通告と子どもを保護については、市民の認識も高まっている今、親子を引き離すだけではなく、その間に子どもも親も教育的支援を受けなければ、親子がよい方向に向かうはずもないという理解が生まれてきている。その一方で、28 条事例も増加し、センセーショナルな死亡事例もあいついで報道される中で、司法の判断は、子どもの虐待に関して親に対する教育、ケアよりも厳罰化の傾向もみせている。

2000 年 5 月の児童虐待防止法施行から 2002 年 6 月までに厚生労働省が分析された報告をみると、127 名の死亡事例のうち、68．8%が児相や関係機関がかかわりながらのケースであった。そのうち児相がかかわっていたケースが 19.2%、関係機関が虐待やその疑いを認識しながら関連機関の連携がとれていなかったケースが 4.8%。そして「関係機関が家庭に対して、養育力の不足している家庭として支援していたものの、虐待にいたる可能性があるとの認識がなかった事例」が 44.8%にも上る。

厳罰ではなく、親教育とケアを【家族の再統合、子どもの自立には法整備が不可欠】

こうした人的資源をいかせない現状を改善していくための、大きな柱となるものが法整備であることは論を待たない。法的な根拠がないまま、何役も担う個々のケースワーカーの努力に任されている現状では、家族の再統合の道を開くことは非常に難しい。

親支援施策の中でも、より厳しい現状にある親へのケア・教育は、3 日に 1 人の子どもが亡くなっている現状において、緊急課題であるといえよう。

虐待に直面する親への､司法によるケア受講命令の実現､早期の法的な見直しが望まれる。

2、親子のニーズに応じたさまざまなプログラムの把握と紹介システムが必要

市町村ネットワークのさきがけとなった「わが町にしなり子育てネット」

児童福祉法の改正では、地域における子育て支援事業が法的に位置づけられ、居宅子育て支援が市町村の責務として定められた。子育てにおける多様なニーズに呼応するということは､｢子育て不安｣対策としての友だちづくり、子育てノウハウを身につけることを目的とした親子教室や集いの広場､マザーグループの運営､また講師を招いての講習会など、

市町村が従来から担ってきた予防領域の支援とともに、予防啓発にとどまらない虐待ハイリスクの親子も想定した適切な支援が、市町村に求められているということである。行政に求められているのは、実際のプログラム開発や直接の運営にたずさわる方法に限らず、子育て支援センターのコーディネート機能や地域のケース会議の質的な向上、官民の協働体制やＮＰＯ団体等との紹介システムを敷くといった、枠組みを整備することとされている。官民協働のよる市町村ネットワークのさきがけとなった「わが町にしなり子育てネット」のMY　TREEペアレンツプログラムの取り組みは、いま、全国的にも大きく注目されている。

多様なプログラムが必要な親支援こそ、官民連携で

さらに、今後こうした施策を行なっていく上で、きちんと予算枠をとって計画的に実施し、効果測定も行なっていく必要がある。現状では、「わが町にしなり子育てネット」は、2003 年度は日本看護協会「まちの保健室」モデル指定・助成によってプログラムの実施が実現し、2004 年度は独立法人福祉医療機構からの助成金を受けて実施することができた。3 年目の取り組みになる 2005 年度は、大阪市教育委員会を通じて、文部科学省「家庭教育支援総合推進事業」を受託が決定し、実施できる見込みである。
このような個別努力による綱渡り的な事業計画となれば、親支援の重要性への認識は一般に拡がっていかず、先進的なプログラムの汎用性は下がる。
公的な責任において、親子のニーズに応じたさまざまなプログラムの把握と紹介システムを整備し、将来的には人材育成も見越した制度の策定が急がれる。

新聞報道の役割―孤立している親の気持ちを揺さぶる

募集に関しては、初年度同様、大阪府および大阪市の後援を受けて、直接ケースと関わる窓口に紹介依頼をした。2 年目に入った 2004 年度は、保育関係、母子保健関係をふくめてこのプログラムの特性が少しずつ知られ、大阪府下を中心に紹介が得られるようになってきている。

しかし、紹介者だけでグループを形成するまでには及ばず、2004 年度も開始直前の新聞掲載によって、連日の集中面接で開始できることとなった。新聞報道の効果は大きく、特に広域募集を可能にする。行政による公的な紹介とともに、新聞報道による救済の側面も、今回目の当たりにすることができた。そこには、記者のセンスや各新聞社の理解が大きく反映する。虐待に直面する親子のニーズはいったい何なのか、虐待が引き起こされ、隠されているのは、「鬼の母」報道のように、個人の性格などの問題であるというトーンで描くのか、これは社会問題であり、親にもケアが必要なのだとしっかり打ち出す報道の姿勢があるのかどうか。そうした価値観を参加者は見出しにみて、電話を手にしている。

2 年間を通じて、「虐待の親は支援に拒否的」とする考え方、「自ら参加する人はまだいい（問題が軽いだろう）」との一般的な認識に反して、重篤な状況にある人、分離中の親子がのべ 4 組も自ら電話をかけてこられた。そうしたケースは非常に遠方から毎週参加され

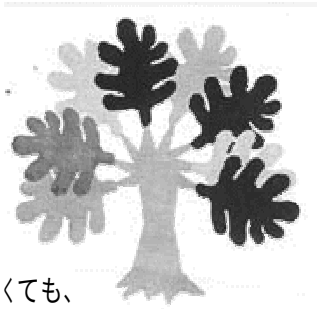
ている事実、この参加者たちが**「虐待―親にもケアを」**というタイトルをつけた新聞に目を引かれ、**「私が求めていたことが、初めてはっきり書いてある」**と口を揃えていることは注目に値する。

3、虐待に焦点をあてたプログラムは、行政区をまたがって相互乗り入れ可能に。

当事業は、親のニーズの特性から、参加申し込みの際のハードルを低くするためにも、広域への募集による参加者の匿名性、プライバシー保護が必須であった。

終了後に書いてもらったアンケートで、開催地域についての参加者からの意見は、2003年、2004年度の参加者とも、積極的に「地元がよい」とされた電車に乗ることができない事情があった方（MY TREE終了後に乗れるようになっている）以外、多くの方が地元でないほうがよい、と希望され、「帰り道も一緒にどこかに寄ったり連絡をしたりしないぐらいMY TREEは約束事が大切に守られるプログラムだけど、それは募集の時点では分からないので（地元以外がよい）」「近所が会場だったら、もし顔見知りがいたら・・、と思って躊躇したと思う」等と書かれた人も、複数であった。

私たちは、第三次防止領域の、今まさに虐待に直面している親に対するケア・教育および家族の再統合への支援は、親や大人たちに向けて広く行なわれる市民講習会や、一般的な子育て支援策では対応できないと考えている。目的と対象を限定した回復支援プログラムが必要である。



そうしたプログラムの実施においては、
①「地域外で」というニーズが少なからずあること
②実施には特別なトレーニングやスーパービジョンを要する点
③実施地域の実践力のある職種間連携が必須であること

などから、大阪市の24区全部の区や大阪府各都市すべてが行なわなくても、
重点指定地域として数箇所で行い、行政区をこえて、どこからでも紹介しあえるシステムを市レベル、府レベルで早急に整備することを提案したい。

次いで、圧倒的多数の子育て不安をかかえる人々に対しては、各地域の小学校区単位での顔の見えるつながりが求められる。①集団では、子育て支援センターや保健福祉センター、トモノス（大阪市）など地元の通いやすい場所で友だち作り、第一次防止の観点からの親子プログラムやマザーグループの開催が望ましいと思われる。②個別の予防介入では、現状でも行なわれている新生児母子家庭訪問制度において、産後うつや虐待グレイゾーンを視野にいれた保健センター・医療機関、地域の助産師の日常的な連携体制を、どの地域でも目標を明確にして進めること、また効果的な支援、早期対応を可能にするために、受診の形だけでなく、ケアを目的とした訪問後の無料個別相談システムの普及を提案する。

Ⅳ．今年度の予定（2005 年度）

今年度も「わが町にしなり子育てネット」では、芦原病院＋子育て支援センター＋青少年会館を拠点に、継続して「ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラム」に取り組むことが決まっている。大阪市教育委員会を通じて、文部科学省「家庭教育支援総合推進事業」の事業助成を受け、大阪府、大阪市、大阪府看護協会の後援により、実施予定。
新たな参加者を募り、グループを編成して 8 月 31日（火）より、開始予定。

資料②；
ａ，「ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラムの保育を利用された方のアンケート」より抜粋

＊　大変良くしていただいてありがとうございました。子ども 4 歳は幼稚園を休んで行きたいと言っていました。

＊　初回から保育を利用させてもらい、子どもたちが実際行っている保育所より、電車の保育所へ行きたいと言うほど楽しかったようです。先生たちも明るくて、優しい方ばかりで、親子で笑わせてもらい、あえなくなると思うと寂しいです。
「Ｄちゃん、Ｄちゃん」と声をかけてくれたこと、バス停まで見送ってもらったこと、私と子どもの二人だけの良い思い出を作ってもらえて、感謝でいっぱいになります。本当にありがとうございました。

＊ とてもすばらしいスタッフに恵まれて大げさではなく、親子ともども幸せでした。
本当に温かく包んでもらってるかのような、そんな感じを受けました。今まで色々な所を利用しても、こんなに手厚くしていただいた事はないし、本当にすばらしいスタッフにみていただいてとても感謝しています。是非その声を伝えて頂きたいです。

＊　一度だけ利用させていただきました。子どもが「また行きたい！」といっていたので、とてもていねいにみていただいたんだと思います。

ｂ，「ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラムの保育にたずさわって」
保育スタッフ全員が、こころをこめて書いてくださいました。（ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラム報告書に掲載）ここではスタッフ全員を代表して 3 名のスタッフのふりかえり・感想文を紹介させていただきます。

【西成子育て支援センター　片岡ルリ】
子育て支援センターを保育の場としてのＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラムの一時保育は 2 度目です。

初めてかかわる保育の担当としては、当初、前年度の取り組みの報告書を読ませて頂きながら、一時保育の担当をどういうかたちで進めていけばよいのかと戸惑いもありました。それ以上にこのワークの内容を知り、自ら参加しようとする親のおかれている状況を考えた時、ここでの出会いを大切に関わりたいと思いました。

場所的には、今年度移転のため、最寄駅からも遠くなりワークの場所へも約１０分程度かかったようです。一回目のみ送迎することで次回からは、少しずつ自分で行動しようとする親の姿がありました。電車の乗り継ぎなど、子どもを連れての行動は、ずいぶん神経も使われたと思いますが、よほどの事情がない限り参加されていました．保育チームの体制としては、前回参加の子育ての経験をもつ前年度の子育て支援員、今年度の子育て支援員、保育士、一人親家庭の支援員で１対１を基本に保育を行ないました。

保育内容としては、子ども自身が「ホッとできる」「また来たいなと思える」場所、興味のある遊びの提供、又親が安心してワークが行なえる場所を心がけました。

最初は、子どもの姿にどう対応していくのが良いかと戸惑い、親に対しても遠慮気味に接していたところがありました。担当者、一人ひとりそれぞれの感性を生かした接し方が、子どもや親にも少しずつ受け入れられ、親からの相談も聴かせてもらえる場面もありました。

ワーク終了後にワークチームとの反省会で、子どもの気になる様子や変化について意見交流する中では、子どもの行動をどう捉えるか、親の思いとの関連などについて話し合いを深め、自らの意識を高めることにも繋がりました。前年度の担当者からの意見も参考になりました。今回、ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラムの保育を担当させて頂いて、虐待は、子どものこころを傷つけてしまうと同時に自分のこころも傷つけてしまう・・・けれども自分の力でかわることはできるよ、のメッセージは、深くこころに残っています。苦しみを抱えるたくさんの親にＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラムを知って参加してほしいと願っています。ワークチームと連携し、この事業に参加させて頂いたこと、感謝しています。ありがとうございました。

【西成子育て支援センター　豊田久美子】

ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラムの保育に支援センターがかかわるようになって 2 年。前年度私は直接保育には携わりませんでしたが、保育の環境をサポートする側から見守らせていただき、そして今年は保育に参加する中で、自分自身が学ばせてもらったような気がしています。

ＭＹ　ＴＲＥＥを申し込んだ親には、さまざまな理由から自分自身を責め苦しんできた背景があり、子育てという自己と向き合う作業の中でさらにその傷が、自分自身を追い詰めているように感じられました。ワークを通し現状の生活を変えられたら・・・という必死の思い。その気持ちを思うと、ワークを支える保育の役割の大きさを実感しました。

保育の中で見せる子どもたちの姿や表現は、当然個々に違いがあり、私たちおとなにたいしてそれぞれの出し方で近づいてきてくれたように思います。　時に乱暴にみえる姿にも子どもの内面が出ており、どう理解し対応しようか、保育チームの中で論議できたことも貴重な機会となりました。

子どもたちの気持ちの出し方に、次はこの方法で働きかけてみようと試行錯誤したり、関係が少し近づいたと思った次の時には受け入れてもらえなかったり・・・小さなからだの中にたくさんの感情や気持ちを秘めていることに気づかされました。そして気持ちが解放されると、子どもたちは豊かに自分の力を発揮していけることも実感しました。

短期間の保育という制約の中で、子どもたちにとって、どこまで居心地のいい場所になれたのか。生活の中でも誰も責めようのない理由のために、子どもは傷ついていたとしたら、センターでは楽しい気持ちになってほしいと思っていました。

まだまだ知らない子どもたちの可能性に出会い、そのことを親と共感できたら・・・と、とても名残り惜しくも感じています。

育てていく親や、育つ環境に影響されることはおおきいのでしょうかが、子どもが本来持っている力を信じ、私たち保育士は子どもを育てていく。決して親だけが子育てしていくものではなく、一緒にパートナーとして今後も関われたら。

今回ＭＹ　ＴＲＥＥに参加した親子から改めて自分の担うことを教えてもらったような気がします。ありがとうございました。

【子育て支援員　川辺　康子】

今回初めての保育の参加ということで、正直戸惑いを隠せませんでした。

《虐待をしてしまう親・虐待を受けている子ども》に対してどのように関わっていけばよいのか？不安な気持ちで保育に望んだけれど、すぐに特別でないごく普通の親子なのだと言う事が、１回目の保育の時にＪＲ今宮駅まで迎えに行き親子に触れそう感じました。駅からの行き道、屈託の無い笑顔で笑う子ども達や、それを見て微笑みながら、初対面の私にとても気を使いながら話しをしてくれたお母さん達、またそんな親子を見て初めに感じた戸惑いとは別の戸惑いを覚えたのも事実です。

でもそんな思いを見事に吹き飛ばしてくれる４歳児の男の子達のパワーに圧倒され、無我夢中で保育に当たったというのが初保育の印象です。

２回目以降は子ども達も、保育をする側も様子見もすんだということもあり、子ども達は「この大人たちは、どこまで自分達を受け入れてくれるのか？」っといったぐあいに、色々な事を試し、時にはそんな事を全く考えていないだろうなと思うぐらい楽しく遊びに没頭している子ども達を見ていると、特別な事じゃなく自然体で接する事の大切さ・大事さを遊びを通して教えられました。

保育の初めに、お母さんたちとも会えるのですが、回を重ねるごとにいきいきとした表情に変わっていくのが手に取るように分り、それがとても印象的で、保育に行く前に子どもと食べるお弁当にも手を掛けている様子などを見ていると、本当に一生懸命に子育てをしている、またしようとしているというのが伝わってきて、「大丈夫！大丈夫！すごくがんばってる。もっとのんびりでもいいよ！」と声を掛けたくなるほどでした。

何人かの子どもが居た中で、私はとてもＤちゃんが気になりました。暴れるでなし、わがままを言うでなし、一見するととても手の掛からないいい子でなんだか気持ちを心のずっと奥に置いてきているみたいで、なんともいえない気持ちになったことを覚えています。でも何度となく会い、同じ時間を共有し、また遊びを通してどんなに環境が違っても（年齢）分かり合えるんだなぁと思えるようになりました。子ども達と過ごした短い時間は、心の中の暖かなところでいつまでもあって、また子ども達にとっても、名前や顔も忘れてしまっても、心のどこかに暖かい何かで残ってくれたらと思っています。

最後に保育に携わり多くのことを学ばしてくれた、参加者の親子や、芦原病院の伊藤さん・井田さん・松浦さん・支援センターの片岡先生・豊田先生・保育チームの皆さん、ありがとうございます。

資料③；
「ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラム終了時の参加者アンケート」より一部抜粋

たくさんのアンケート項目に、お一人お一人丁寧に答えてくださり、
ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

『ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラム』に参加されて、ご自身やご家族、子どもさんとの関係に何か変化が生まれていますか？あるいは変化がおきることが期待できますか？

・期待できる時も有るし期待できないと感じるときもあります。むちゃくちゃ叩く事がなくなった。ちょっとはあるんだけど…。

・３人の指導をしていただいた方に、いつも全面的に受容して頂きましたので、私もそうなりたいと思いました。今は本気で叩いていませんし、距離があけられるようになりました。家の中での争い事が減りました。

・少しずつですが、子どもに対して、手をあげたり暴言が少なくなってきています。（今はほとんど手を上げることはなくなりましたが、自分の体調の悪いときや疲れているときなどに暴言を吐いてしまうことがあります。）今までは子どもが反抗してきたときや言うことを聞かなかったときは、怒鳴るだけ怒鳴り、子どもの意見を聞くことはありませんでしたが、プログラムに参加させてもらい、これも少しずつではありますが、子どもの意見、気持ちを聴き、「そうやったんかー」「そうやなぁ」と子どもと同じ気持ちになることが出来つつあります。そうできることによって手をあげたり暴言を吐いたりする事が少なくなってきました。プログラムが終了してしまいましたが、今まで勉強してきたことを忘れずに、マイペースで子どもや夫と、いい家族関係になれたらいいなぁ、と思っています。

・私自身、子どもに手を上げることがほとんどなくなりました。子どもたちも少しずつ、自分の気持ちを言葉で伝える事が出来るようになったと思います。主人には、今まで以上に感謝の気持ちでいっぱいです。“いっぱい、自分でも気付いていないところでも良い方向に変化してる”と思います。

・　子どもとの関係に変化が起きる事が期待できると思います。（現時点では、まだ変化があまり生まれていませんが…。）　いつも頭の片隅に、心の片隅にプログラムで学んだことを留めておき、思い出し、自分が強い意志を持って体罰をやめる事が出来たならば、自分自身も子どももきっと、今までと変わると思っています。　ただ、他の人（子ども以外、夫やその他の家族、他人）との関係に変化が起きる事が期待できるかと言えば、少し無理なような気がします。（自分自身と子供のことについて語るのが中心だったので。）これには、もっともっと時間（学ぶ時間）が必要です。このプログラムの何倍もの時間が必要かと思います。（その後なんだか今までの疲れがどっと出て、重い荷物が少し軽くなったような気がします。不思議な感じです。）

このグループミーティングで、あなたにとって一番意味のあったこと、大切に覚えておきたいことは何でしたか？

子育てに悩んでいるのは私だけでないんだということ。親友にも親にも話せないことを話せる安心の場があったことが私にとってとても助けられ参加してよかったなぁ～、と終わった今でも思います。また参加したいぐらい。

３人の方がいつも親切だった事。たくさんの方に出会えて自分だけではないと思えた事。元気をもらった事。楽しかった事。

自分と同じ思いをしてる人が他にも居ることを知って勇気をもらえたような気がする。『あなたは大切な人です』等の言葉が自分のうちに深く刻み込まれていて、時々、脳裏に現れる事がある。

・「生きていてよかったなぁ」と感じられたこと。精神的にもかなり追い詰められていて、本当に子ども３人を置いて私１人家を出て行こうかな、と思った時期もありました。“死にたい”と思い、大量服薬をしたこともありました。しかし、みんなにそのことを話すことによって、私という人間を認めてもらえてる気がして、本当に救われました。大量服薬した話をした日の帰り、悠子さんに後ろから抱きしめてもらい、言葉では言い表せないものを感じ、“私のことを大切に思ってくれている人がいる”と、大変勇気付けられました。夫ですら、大量服薬しているのを知っていてもそのまま１日ほったらかしにされていた事が、２回もあるのですから……。

・今まで自分の中にはなかった考え方を教えてもらった気がします。漠然とした悩みやイライラ、自分でも訳のわからない感情も学びながら、自分で語りながら、人の話を聴きながら、いろんな理由があったのだと気付いた。自分はこれからどうしたいのか、どうすればよいのかが少し見えてきた。そういう意味で悩みの意味が違ってきた。

・色々な事を気付かされたと共に、過去の辛い体験や幼かった頃の日々を思い出して、自分の子どもに同じ思いはさせまいと最近感じるようになりました。

・とにかく、子どもへの怒りの感情をコントロールしたくて参加しました。自分がなぜ、爆発してしまうのかをいっぱい考えることが出来ました。そして、自分自身親から受けた虐待がすごく影響していることもわかりました。もっと自分に自信を持っていこうと思うようになりました。同じように虐待が影響して、しんどくなっている人達の話を聴いてみたい、知りたい、学びたいと、いう気持ち・・参加している間に思うようになりました。大阪へ来るまでの子どもと二人の時間も私にとって意味がありました。もしかしたら、それが一番意味があったと思うぐらいです。「もちろん、皆さんと出会えたことも。」

・子どもとの関係修復のために参加したのですが、プログラムでは自分と向き合う事を第一としていました。ワークで学んだことは、これから先生きていく上で、いつも私も心の支えとなり、また自信にも繋がると思います。

これからのあなたの課題は何ですか？

・プログラムで勉強したことを忘れず、他の方がお話してくれた事を心に刻み、子どもの気持ちを聴いてあげれるようになりたいです。どうしても「後でね」「ちょっと今いそがしいから」とか、兄妹でケンカしている時は「何でケンカしてるの！」と怒ってしまうので、少しずつでも変わっていけたら、変わっていきたいと思います。

・とても前向きな気持ちのときと、「やっぱり私なんかダメ」と思ってしまう時と波がある。
親の声や姿を見るとしんどくなること。子どもを殴らない代わりに、自分を傷つけたくなること。

・自分、他者を尊重する中で、過去の体験や思いなどを語り、また聴かせてもらったという事は私にとって貴重な経験でした。なかなか出会うことのない、つらいところを通ってきた方々、苦しんできた方々と接することで、私たちがこの痛みを通して何を学ぶべきか？何を伝えていくべきか、など深く考えさせられました。

・温かい家庭を作ること。何とかしてひねくれた我が子を素直でだれからも愛される子に育て直す？事。

・自分を大切にすること　　そこから全てが始まるとおもうので…

・子どもとの信頼関係を築く　怒りに支配されない自分なりの癒しを見つける　自分の全てを否定しない

・自分の感じる道を進めたい、心おだやかに安心して過ごせる老後

＜ワークを行う場所、環境についての設問＞お茶の用意はいかがでしたか？
（　とてもよかった×９　・　よかった×２　・　どちらでもない　・　不要　）
また気になったことがありましたら、今後のためにぜひお書きください。

＊いつも家で子どものことでドタバタしていて落ち着かない人でもアロマ・お茶でリラックスや気分転換できると思う。サロン的な感じの中で心を解き放ち、みつめる良い場になっていると思う
＊毎回行くたびに２～３杯は飲んでいました（汗）いろんな種類もあり楽しみのひとつでもありました。
＊場が和んでいた様に思われます。
＊今までに飲んだ事のないコーヒーやお茶おいしかったです。特にアロマ茶　etc
＊いろいろな種類の物を用意して下さって有難うございました。
全くないよりは、毎回楽しみにしていたり、リラックス出来たりで何か用意していただいたほうがよいと思います。
＊お茶まで用意してもらえるなんて!!って驚きました。
＊のどが渇いていても用事に追われて我慢して過ごしてきたので、ゆっくりお茶を飲めるなんてひと時の幸せさえ感じました。

子育て支援員の細やかな準備によって、夏は冷たいお茶、晩秋からはあたたかいハーブティなども提供することができた。子育てに悩み、子どもや自分を傷つけている親たちは、自分のためにお茶を 1 杯いれることもない日常にある。各種のお茶の用意、好きなものを選び、味わう習慣は、単なるおもてなしとして行なっているのではなく、ワークが終わってからも行なえるセルフケアの具現化として、重要な意味をもっている。

光の入る畳の部屋（ただし 2004 年度は障子が払われ、日が当たりすぎていた）、アロマ精油による環境整備も、五感を刺激し、ワークの効果を高めることをねらっている。

＊畳の部屋は足を伸ばす、寝転ぶなどリラックスするのに有効だったと思う。

＊畳の部屋で心が落ち着いた。（複数同意見）

＊館内放送でワークが中断したことも何回かあって、話が聞き取りにくかった。（複数）

＊館内放送とか子どもの声で、多少聴き取りにくいことはありましたが、自分にも子どもがいるので、仕方がないと思いました。

＊時々子どもたちが気勢を上げたりしているときは少々集中できず、聴き取りにくい時もありました。

＊時々、子どもの声が邪魔だったり、参加者の方の声が小さくて聴き取りにくいことはありましたが…。

＊周りの雑音で聞き取りにくい事は多々ありました。それも、いつも肝心なところで…

そのほか自由に書いてくださったこと

・大変なストレスを抱える仕事だと思います。どうぞお体とお心を大事になさってください。力をくれてありがとう♪

・　本当に御親切に大切に育てていただきまして有難うございました。

・　いきなりでごめんなさい。文章も何もかも、自信のない私を代弁してくれているそのものズバリ見つけました。・・「虐待（震災）体験を経て、何か新しいものがもたらされたのか、と問われる時（現在については）否！という答えしか私にはない。しかし、かなり強い胎動が感じられることも確かである。目にはさやかに見えないけれど。」＜‘人の尊厳　自覚に目覚めた芸術家（２００４年１２月２２日の新聞記事より）＞

　最初から最後まで大切に丁寧に接してくださって本当にありがとうございます。老後を安心して送りたいとの想いから申し込みました。人が怖く心配に先取り、心の幼稚さ、その他いっぱい考え込んだ私です。自分を打ち消すことばかり考えていた私です。　当初、語るトークは自分の過去を見るようで、いやでストレスを感じました。年上の私は恥ずかしげもなく感情をぶつけ・怒り・甘えさせてもらいました。私自身しゃべることで苦しみから、早く楽になりたく、はっきりと事細かく言うことで、私を分かってもらいたいという一心からだけなのでした。一人では解決できないことを知っているからです。ごめんなさい。　　でも教えられたのです。・・人間らしい扱い、収支一環変わらぬ態度・丁寧に・まじめに接してくれたことが何より心に響き涙が出てくるようになりました。１１月１６日頃から徐々にここは安心しても良い場所なんだと思えるようになったのです。どうしてなのですか。一回一回に頭を下げて「ありがとう」と水知らずの我々に言ってくださるのは。この真剣さはどこから来るのですか。

　揺さぶられるものが確かにあるのです。よしがんばってみよう。やってみよう・ほめてくださる事に甘えてみようと思わせる「力」はいったい何なのでしょう。反発する「力」の強い私・独特の物言いしか出来ない私が始めて思った事なのです。このまま自分でいいんだと本当に思えるようになったのです。３ヶ月も大切に扱われて初めて人に対してやさしくなれる人を大切に出来る意味が分かったのです。

　私には充実感でいっぱいでした。本当に本当にありがとう。涙で感謝の言葉もありません。

以上。（文責　芦原病院　女性科）

⑧　中高生委員会

一昨年から、わかもんネットという形で取り組み始め、毎週1回金曜日に、青少年会館を拠点としての居場所作りを行ってきた。今年度は、ネット主導ということよりも、その事業そのものを、本来の青少年会館のあるべき事業としてとらえ、青少年会館が独自に中高生の夜間の自由来館を金曜日以外にも拡大し行ってきた。開催曜日の拡大にともない、利用数も伸び、常連層ができるようになってきた。しかしながら、青少年会館を利用する各種団体（個人）をコーディネートし、お互いに交流するという動きには、各施設の思惑の違いや、力量不足で実施するにいたらなかった。また、他との関係作りが難しい多感な年代の中高生に大人が無理やりにくっつけようとしていくのもおかしく、自発的にくっつくような、裏の仕掛け作りへと着眼点を変えていく必要があるのではと思われる。

⑨　あい・ｅｙｅ・ネット

＜2004 年度　子育て交流会「あい・eye・ネット」報告書＞

◇　年度当初トモノス西成で行っていた 2004 年度の子育て交流会（ミニ会議）は、　　ネーミングも新たに「あい・eye・ネット」とリニューアルし、西成児童館を拠点として毎月おもに第３木曜日に行いました。

【第 15 回　あい・eye・ネット　報告書】

・ 実施日　　2004 年 4 月 15 日（木）　10 時～12 時
・ 場所　　トモノス西成
・ 参加者　　27 名（大人 15 名・乳幼児 7 名・スタッフ 5 名）
・ 実施内容：①プール交流会について（保育所保護者会連絡会：川村氏）
　②「刺股」による防犯についての講演・実技・ディスカッション（吉田英子氏）
　③今後の「子育て交流会」のあり方についてのディスカッション
・ 決定事項など：今後の子育て交流会の実施場所は、西成児童館とする。より親しみやすいニックネームを募集する。（次回応募作品の発表会を行う）

【第１６回　あい・eye・ネット　報告書】

・ 実施日　2004 年 5 月 27 日（木）10 時 30 分～12 時
・ 場所　　西成児童館
・ 参加者　15 名（大人 8 名・乳幼児 2 名・スタッフ 5 名）
・ 実施内容：①「子育て交流会」　新名称決定！！三木文代さん（すみれ・たんぽぽ所属）の作品「あい・eye・ネット」～子どもたちを愛する「あい」・問題点を見つける目「eye」・ 人と人とのつながり「ネット」～に決定！（応募総数 28 件）
　②あい・eye・ネット運営体制
　・基本的に毎月第３木曜日 10：30～　西成児童館にて実施
　・子育てに関心のある方ならば、自由に参加できる。
　・意見、提案 → 支援員が取りまとめ、テーマを設定

【第 17 回　あい・eye・ネット　報告書】

・ 実施日　2004 年 6 月 17 日（木）10 時 30 分～12 時
・ 場所　　西成児童館
・ 参加者　（大人 10 名・乳幼児 5 名・スタッフ　名）
・ 実施内容：①　子育てネットってなぁに？
　→子育てネット小掠代表より、一般の母親向けに、わかりやすく子育てネットのしくみやその目指すもの、についてのお話をしていただいた。
　②　子育て交流会「あい・**eye**・ネット」のこれから
　→「あい・**eye**・ネット」で今後取り上げたい議題や、取り組んでゆきたいことなどをディスカッション。大まかな年間計画が決まった。
　＊入学・入園準備＆サークル説明会＊ネットでリース＊子育ての集い準備
　＊写真など趣味の講座＊乳幼児の救急救命・応急手当＊阿倍野防災センター見学など

【第 18 回　あい・eye・ネット　報告書】

・ 実施日　2004 年 7 月 15 日（木）10 時～12 時
・ 場所　　西成児童館
・ 参加者　（大人 17 名・乳幼児 8 名・スタッフ　名）
・ 実施内容　乳幼児の救急救命法と応急手当
　西成消防署津守出張所の救急隊員の方をお迎えして、標記の内容についての講座開催していただ

いた。修了者には普通救命講習の修了証を授与。

【第 19 回　あい・eye・ネット　報告書】

・　実施日　2004 年 8 月 26 日（木）10 時～12 時
・　場所　　西成児童館
・　参加者　59 名（大人 28 名・乳幼児 26 名・スタッフ 5 名）
・　実施内容：ママによる ホンネの 幼稚園・保育所（園）説明会（情報交換会）
　　昨年度に引き続きの実施。夏期休暇中ということもあり、若干参加者は少なかったが、身近なお母さん仲間なので、質問もしやすかったと好評。

【第 20 回　あい・eye・ネット　報告書】

・　実施日　2004 年 10 月 21 日（木）10 時 30 分～12 時
・　場所　　西成児童館
・　参加者　（大人 12 名・乳幼児 14 名・スタッフ　名）
・　実施内容：橘千本北公園であそぼう！
　　⇒ 雨天のため中止：西成児童館でのフリートーク
　　月齢の低い方の出席が多かったため、乳幼児の育児に関する話題が中心であった。（おむつがえ・後追い・卒乳・病院情報・好き嫌い）その他、「ことばの発達が遅い」と健診で指摘され、プレッシャーとなりつらいという方もいらっしゃった。

【第 21 回　あい・eye・ネット　報告書】

・　実施日　2004 年 11 月 18 日（木）10 時～12 時
・　場所　　西成児童館
・　参加者　17 名（大人 8 名・乳幼児 7 名・スタッフ 2 名）
・　実施内容：こどもの里特集
　＊　ビデオ上映会「こども輝け命 父ちゃん母ちゃん生きるんや～大阪・西成 こどもの里」施設長の荘保 共子氏をお招きして、こどもの里やこどもたちを取り巻く環境などについてのフリートークを行った。参加者の中から、こどもの里のフリーマーケットなどを手伝うボランティアを希望する声があがる。

【第 22 回　あい・eye・ネット　報告書】

・　実施日　2004 年 12 月 16 日（木）10 時～12 時
・　場所　　西成児童館
・　参加者　5 名（大人 5 名・乳幼児 0 名）
・　実施内容　阿倍野防災センター見学
　＊　参加者は思いのほか少なかったが、非常に有意義な見学会であった。救急救命などと同様、防災・防犯等も日ごろの備えが大切であると改めて実感した。

【第 23 回　あい・eye・ネット　報告書】

・　実施日　2005 年 1 月 20 日（木）10 時 30 分～12 時
・　場所　　西成児童館
・　参加者　30 名（大人 13 名・乳幼児 14 名・スタッフ 3 名）
・　実施内容：子育ての集いについてのディスカッション
　＊　会場レイアウト（リサイクルコーナーなどの位置を確認）
　＊　着ぐるみを怖がる子が多い　　＊分かりやすいタイムスケジュールが欲しい
　＊　会場装飾および前日準備の協力依頼と段取りについて

【第 24 回　あい・eye・ネット　報告書】

・　実施日　2005 年 2 月 17 日（木）10 時 30 分～12 時
・　場所　　西成児童館
・　参加者　26 名（大人 12 名・乳幼児 12 名・スタッフ 2 名）
・　実施内容：子育ての集い バルーンアートの練習
　＊　富田保育所 子育て支援センター 佐藤様が見学にいらっしゃった。西成の「子育てネット」や非常に充実したサークル活動など参考にしてくださるとのこと。

【第 25 回　あい・eye・ネット　報告書】

・　実施日　2005 年 3 月 17 日（木）10 時 30 分～12 時
・　場所　　西成児童館
・　参加者　6 名（大人 3 名・乳幼児 1 名・スタッフ 2 名）
・　実施内容：茶話会
　　「子どもの居場所」のシンポジウム（3/15 実施）・こどもの里の改修工事資金・
　　育児に関する話題（夜泣き・保育園での生活）などが中心であった。

⑩　フリーマーケット実行委員会

第３回　フリーマーケットの実施

2004 年 10 月 30 日（日）西成区民センターで〈わが町にしなり子育てネット主催　第 3 回フリーマーケット〉を実施しました。第 1 回目よりの主要メンバーである「ハギッズ編集グループさくら組」の協力を得て、子育て支援員、実行委員会メンバーとともに準備して行きました。会場が第 2 回目の西成青少年会館から、第 1 回目の開催場所の西成区民センターに場所を移し行われた。

◆フリーマーケット開催までの経過・前日準備・当日開催スケジュール報告

5 月 12 日　◇子育てネット総会で「第 3 回フリーマーケット」開催要綱発表
　　実行委員会の編成・実施細目の作成

6 月　4 日　◇第 1 回実行委員会
　　・先着 57 ブース　・出店料：1 ブース、300 円　・模擬店の出店
　　受付場所：ネットルーム　・雨天決行・わかもんネットと連携

7 月 上旬　◇にしなり我が町（7 月号）一般配布、ＨＰに出店募集掲載
　　●ポスター掲示依頼場所
　　・西成区役所 1F 掲示板　・トモノス西成・西成児童館　・スーパーカナエ
　　・スーパービッグ岸里・スーパーはやし　・鶴見橋商店街・グリーンショップ
　　・人文センター掲示板　・その他

7 月 15 日　◇フリーマーケット出店募集受付開始

8 月 10 日　◇第 2 回実行委員会
　　・前日の準備（出店者にも依頼）・スタッフ確保（幹事会で呼びかけ）
　　・コーナー依頼（遊びコーナーなど）　・ハギッズ（9 月号）にフリマ開催記事掲載依頼

8 月 19 日　◇幹事会（前日､当日のスタッフ及び模擬店依頼）

8 月初旬　◇フリーマーケット事前説明会開催
　　開催場所：西成児童館・トモノス西成・ネットルーム

9 月 1 日　◇第 3 回実行委員会
　　・抽選会の景品の件（昨年同様購入するのか）

9 月上旬　◇出店者名簿の作成
　　◇フリマ内掲示用「子育てネットパネル展」制作開始

9 月 29 日　◇第 4 回実行委員会
　　・フリマのブースや→検討中・前日テープで区切る
　　・当日は混雑が予想されるので安全対策は万全に

10 月上旬　◇青少年会館に会場利用の依頼文提出
　　・フリマ用掲示物、スタッフ名札、パネル等の準備

10 月中旬　◇抽選会用の景品購入、抽選券作成

10 月 27 日　◇前日準備（ブース区切り・景品包装・掲示物貼付・チラシ配り）

10 月 26 日　◇当日スタッフは 8 時集合（バンダナ・名札使用）、準備開始

10 月 30 日　◇ 9：00 物品搬入準備・ 9：30 搬入（区民ｾﾝﾀｰ）・ 10：30 会場準備開始
　　12：30～13：30 休憩・13：30 配布物ｾｯﾄ・14：00 バルーンアート・
　　15：00 最終確認 作業終了予定 ※こどもの里搬入作業・17：30 会議室設営

10 月 31 日　◇ 9：00 ポスター貼付・ 9：15 スタッフ集合 注意事項確認バンダナ・名札
　　・ 9：20 会議室設営（1-1 授乳ｺｰﾅｰ）・9：30 出店者搬入受付・ 10：45 出店者諸注意
　　・ 10：55 開会挨拶・11：00 開店 バルーンアート・11：10 ちらし配布
　　・12：00 抽選会① 終了次第景品交換・13：00 バルーンアート・ 14：00 抽選会②
　　終了次第景品交換・15：00 閉会挨拶・ ｱﾝｹｰﾄ回収・片付け・15：40 機材搬出
　　・ 16：00 終了予定

第3回 フリーマーケット担当者一覧

係	担当者	内　　容
本部	★小掠・鈴木・相原・（支援員）	案内・苦情処理・迷子・ 景品交換
受付	★片岡・岩出・（支援員）	出店者受付・来場者に資料＆ｱﾝｹｰﾄ配布＆抽選券・義援金
看板	（表）澤村・（舞台上）廣瀬	看板作成・設置
警備（外）	★澤村・ひだまりの皆さま	出店者車両誘導・自転車整理
警備（中）	★出水	出入り口付近・ﾄｲﾚ周辺など
喫茶	★久保・澤村・中谷・松下・ﾗﾎﾟｰﾙ	
ｹﾞｰﾑｺｰﾅｰ	★西森・佐藤	
抽選会	★久保・澤村・真鍋	
ブース設営	★鈴木・西森・相原・大久保・井上	
会議室設営	★澤村・中谷・高岩	
装飾	★吉田・西井	バルーンアート（入口）（里）
搬入・搬出	谷川	
里ｱｼｽﾀﾝﾄ	岡崎・清水・西井	
宣伝	山本・相原・川辺・高岩・出店者	ポスター貼り・ﾁﾗｼ配布
フリー	橋本・高校生ボランティア	
開会挨拶	小掠	
閉会挨拶	鈴木	当日スタッフ＆出店者への諸注意
資料配布	★相原・川辺・高岩	
写真撮影	★西井	
接客	川辺・高岩	弁当手配など
区民ｾﾝﾀｰ	川辺・高岩	区民ｾﾝﾀｰ事務所との連絡

第3回 わが町にしなり子育てネット フリーマーケット ～アンケート～

回答数 73（出店者 9 ・ 来場者 23 ・ いずれか 41）

【1】 どこでフリーマーケットがあることを知りましたか？（複数回答可）

ア） ハギッズ 15 イ） ポスター 18 ウ） ちらし 17 エ） ホームページ 3

オ）知人から聞いた 28 カ）広報紙（区民だよりなど）9 キ）その他（トモノス①・ネットルーム③）

【2】 フリーマーケットに参加して

ア） とても楽しかった 35 イ） まぁまぁ楽しかった 35 ウ） いまひとつだった 7

エ） 面白くなかった 0（ なぜ？… ）

・ 子供服だけじゃなく、アクセサリー・日用品をもっとほしい ・子どもは遊ぶところが少なかった

【3】　楽しい出会いや会話はありましたか？

ア）　あった　　57　イ）　なかった　16

【4】　今後どのようなイベントがあったらいいと思いますか？（ご自由にお書き下さい）

・もっとうりたい　・いいと思う　・いいと思う。けど…！
・フリマ（ひんぱんに）（もっと大きな）（月一回くらいで）→フリマ希望全部で⑩
・もっとあそべるところがいっぱいいっぱいあって、おもちゃうりばもいっぱいいっぱい
・去年もやっていた、りくろーおじさんのパン作りなど（工場見学）
・子どもが遊べるような場所があるとうれしいです。
・生活に役立つようなものを出品して欲しい
・ミュージカル　　・小さな子どもも楽しめるコーナーがあればいいと思います。
・絵画とか手芸品とかあったら…
・フリースペース（おしめを替えたり、ミルクを飲ませるコーナーなど）
・親子で参加できるイベント　　・いろいろなイベント
・もっともうけたい　　・今のままでいいと思う。

【5】　主催している「わが町にしなり子育てネット」について

ア）　知っている 34　イ）　聞いたことはある 20　　ウ) 今回初めて知った 20

【6】　「わが町にしなり子育てネット」を知っていると答えた方は…

ア）イベントに参加したことがある 14（イベント名：パン作り・いろいろ・子育ての集い・フリーマーケット・すみれさんの講習）
イ）　発行物（ハギッズなど）を見たことがある 26 (ハギッズ・ホームページ)

【7】　今後フリーマーケットがあれば参加したいですか？　（今回は、来場・出店）

ア）　出店者として参加したい　28　　イ）　来場者として参加したい 46
※出店者は全員 ア）（参加したい）

【8】　その他ご意見など（ご自由にお書き下さい。）

・ 楽しかった　　・ 初めてだったので値段をつけるのがむずかしかった。段取りもぬるかったようです。
・スタッフの方々ご苦労様でした。子育てネットワーク また、何か協力することがあれば参加したいと思います。(住吉区)
・募金を売り上げの中からしようと思っていたのでたすかりました。
・こんな日に図書館が開いていてほしい。③　　・本がいっぱいあって安く買えたらいい。②
・プーさんとかティンカーベルのグッズもいっぱいあって安くしてほしい！②
・ゲームとか成功したら、抽選券を増やして欲しい。②　・ゲームカセットが安くて、いっぱいあったらいい。②
・いつも楽しいイベントありがとう。これからも子育て中のお母さん達のためにがんばって下さい。
・ものの豊富な時代にリサイクルをすることで豊かさってなんやろう…と自分自身いろいろとおもうとことありでした。・もっと抽選を増やして欲しい ②
・コミュニケーションの場としても、リサイクルの場としてもとてもよいと思います。がんばって下さい
・今日はとても楽しかった。また来れたらいいな、と思った。
・パソコンの吉永先生と以前お仕事でご一緒した時に、子育てネットのホームページの事を教えていただいたので、時々ホームページを見せてもらっています。フリーマーケット なぜか朝途中で JR の電車が事故？で 30 分止まったり、いろいろと困難な道中？だったのですが、うまく会場にたどりつけていい物をたくさん買えてとても楽しかったです。またフリーマーケットがあればぜひまた来たいです。
・2～3 歳の子どもも楽しめるおもちゃや小さな遊具のコーナーもあればよかった。
・もう少し…年に複数回あれば良いかと…。その他のイベント等もあれば…。

第３回フリーマーケット報告及び反省

〈報告〉

- ◆ 来場者数　　約 800 名
- ◆ 出店予定ブース（一般）５２　　うち当日キャンセル１ブース
- ◆ アンケート回収　７３件
- ◆ 新潟県中越地震　及び　台風２３号の被災地への義援金について
  →￥13,589 円－を、日本赤十字社を通じて、新潟県と兵庫県に送付しました。

〈反省〉

◆ 準備等

・事前説明会を行う事により、子育てネットの主旨を理解していただく事ができた。しかしながら、マナーに反する行為も見られたので、今後ますます出店者の方との意思の疎通が望まれる。

・広報活動は、かなり万全であった。各所でチラシ等を配布していただいたおかげでかなりの PR 効果が上がった。ご協力ありがとうございました。

◆ 前日の段取り

・仕事の段取りにもっときめ細かなタイムスケジュールが必要であった。

・せっかく協力してくださったボランティアの方を手持ち無沙汰にしてしまうという状況もあった。

・午前、午後に区切って作業した事は正解であった。

・前日に限らず、出店者と協力して作り上げてゆく作業をもっともっと取り入れてゆければよかった。今後は、（現在非常に要望の多い）小規模なフリマ（ガレージセール的な）を実現し、交流の場を広めるとともに、フリーマーケットの協力者を得る努力や試みをしてゆきたい。

◆ 当日の段取り

・アンケートの回収率をｱｯﾌﾟさせたい。声かけ、回収作業の徹底が必要であった。

・出店者の搬入作業・開店等の時間区分を再検討すべき。

・開店時、受付に来場者が殺到した。受付要員を増員すべきであった。

・片付け、トイレ等のチェック

・抽選会の手順を再検討すべき

◆ その他

・プロの出店者が見られた。今後は事前に出品物の調査を行う、事前説明会の徹底など、「子育てネット」趣旨を理解し、協力していただける方を求めてゆきたい。

フリーマーケット開催にあたり

今回のフリーマーケットは前回とは異なり、青少年会館から区民センターになりました。
室内に変えたことにより、喫煙する場所が設定できたので他の人に迷惑がかからないように配慮できました。また、BGM にはやさしい音楽を流しました。(喫茶コーナー) や (子どもの遊びコーナー) を設け、子どもや大人も楽しめるように考えました。
抽選会は2回行い出店者の方にくじを引いてもらうことにより、公正さと一体感をアピールしました。
お母さん方や、子どもたちにも、バールーンアートや、紙のお花をつくってもらい
素敵な飾り付けができました。
自転車の整理はボランティアグループ「ひだまり」さんにしていただきました。
自分たちも出店していましたがたくさんの人に出会え、言葉を交わすことができ
楽しい一日を過ごすことができました。

相原　鈴木

⑪　みにみにフリーマーケット

＜　活　動　報　告　＞

１）＜みにみにフリーマーケット＞の誕生

2004 年 5 月度の“あい・eye・ネット”で、『ネットでリース』（仮称）「地域の子育て仲間で、育児用品等のリースをしてはどうか？」という提案をいただきました。

また、2004 年 10 月実施の『フリーマーケット』のアンケートで、「実施回数を増やしてほしい」「季節に応じた開催を…」などのご意見を多数いただきました。

それらの提案の実現と、従来の『子育てネット：フリーマーケット』の運営スタッフ拡充を目的とし、試みとして始めたのが＜ミニミニフリーマーケット>なのです。

２）実施への準備と経過

◇　開催場所：西成児童館

多くの親子の集いの場である西成児童館にお願いしたところ、快く開催場所の提供にご協力いただけることとなりました。

◇　開催に際しての準備など

- 開催日時調整、決定
- ポスター、ちらし作成（子育てネット加盟団体に掲示または配布依頼）
- 広告掲載依頼（ハギッズ、子育てネットホームページ、にしなりタウン他）
- 出店エントリー受付、調整
- 当日（会場外回りへのポスター等掲示、会場案内、アンケート受付、保育、後片付け、反省会＆次回開催日調整 など）

◇　実施履歴

回	開催月日	出店数	来場者数（およそ）
第１回	12 月 8 日（水）	11 店・17 名	70 名
第２回	2 月 3 日（木）	8 店・13 名(ｷｬﾝｾﾙ 1)	20 名（寒波のため）
第３回	3 月 2 日（水）	14 店・30 名(ｷｬﾝｾﾙ 2)	200 名（子育ての集い）

◇　アンケート集計結果

	楽しかった	いまひとつ	今後実施したい	実施したくない
第１回	85%	3%	100%	0%
第２回	33%	66%	100%	0%

第 2 回目の満足度が伸びなかったのは、寒波により出店・来場者数とも少なかったことが原因と思われる。しかしながら、回答者のうち、すべての方が、今後も継続的に実施することを希望しておられることに注目したい。

〔反省・改善すべき点〕

❖出店数が少ない。　❖お客さんが少ない　❖値段をつける幅に迷いを感じる。

❖小さい子ども向けだけでなく、もう少し大きいこのものも欲しい。

❖もっともっと宣伝した方がよい。児童館のサークル限定のフリマだと思っていた。

❖時間を長くして欲しい。　　❖もっと早めに宣伝を

❖お客さんの流れが悪く、閑散としていた時間帯もあった。

❖事前にどんなところに広報しているのがわかれば、出品する商品も選びやすい。

❖もっと幅広い年齢層の方を参加させないと！

❖入り口に看板を立てるなど、もっと道を歩いている人にも分かる様にしたらいいと思います。

❖時間帯や曜日など、土曜・日曜・平日なら夕方だと人が集まると思った。
❖「みにみにフリーマーケット」より「得々…」とか「ハッピ〜…」などのネーミングの方がもっと行きたくなるかも!?

〔その他〕
❖サイズと値段がわかりやすく書いているところは買いやすい。
❖子どもの欲しいものがあり、喜んでいました。　❖大人の服も買えた。安かった〜！
❖買いやすい値段でよかった。おまけもあった。
❖児童館なので、子どもが勝手に遊んでくれて見やすかった
❖お客さんが少なかったことは残念でしたが、このような場を与えて頂けてとてもうれしいです。PR をもっといろいろ工夫して、次回も参加したい。
❖お客様とのやりとりが楽しかった。　❖人とのふれあいが楽しかった。
❖久しぶりに会った人が出店していて話ができたのでよかった。
❖衣類はお客さんの希望するサイズと合えば売れる。雑貨類はよく売れるようだ。
❖お客さんといろいろ話せて、小規模でとてもよかったです。
❖大規模なフリマは大変だけど、このぐらいの小規模だと気楽に参加できる。準備される支援員さんは大変で申し訳ないのですが、またぜひやってください。　❖服が安かった。
❖平日で参加しやすかったです。　❖安いし、アットホームでとても楽しかった。
❖子育て世代にはぴったりだと思います。定期的に開催してほしいです。
❖思っていたよりたくさんの方に来ていただき、話もいっぱいできた。
❖いろんな人と話をしながらそれなりに売れた。❖すっごく安くしてくれてうれしかったです。
❖子供服はすぐサイズが合わなくなるので、フリマは助かります。
❖思っていたより個人の出品物が多かったので、良かったです。

◇　今後の課題と展望

アンケート結果かからもご覧の通り、継続実施を希望する声が多数あり、リサイクルを通して、新たな親子のつながりができたり、「まぁ！久しぶり！」という再会の場面も多々みられる。また、次回（5/19 予定）は、初めて一般市民の方も出店予定である。親子のみならず、一般の方々との貴重な交流の場として、大切にしてゆきたい事業の一つである。

- 運営スタッフの拡充　（数名の中心メンバーを確保、自主運営を目指す）
- 地域への定着（継続すること、毎回の PR を工夫、出店内容の充実）
- 運営システムの確立（運営スタッフを中心として、リサイクル専用のブログまたは掲示板などを作成し、地域のリサイクル情報の共有化・開催日時の告知・出店エントリー受付などを目指す）
- 従来のフリーマーケットとの連携（子育てネットフリーマーケット実行委員会スタッフのメンバー拡充：みにみにフリーマーケットでのつながりを基盤にし、「みんなが参加し、みんなで作り上げる」フリーマーケットの実現を目指す。）

⑫　子育てボランティア活動報告（すみれ）

月	日	内容	詳細	活動人数(人)
4月	13日	定例会	活動費について、玩具や備品の購入について他	8
5月	12、19、26日	一時保育	PC講座	12
6月	2日	一時保育	PC講座	4
	8日	一時保育	保育ボランティア講座（公開講座）	4
	11、15日	一時保育	子育て交流会	6
	24日	定例会	新規メンバーの紹介、今後の予定他	18
	23、30日	一時保育	PC講座	7
7月	1日	一時保育	保育所保護者会	3
	6、13日	一時保育	青少年会館にて	3
	7、14日	一時保育	PC講座	8
	9日	一時保育	子育て交流会	5
9月	2日	一時保育	人権文化センターにて	2
	9、16、30日	一時保育	保育ボランティア講座	14
	11日	一時保育	虐待を考えるフォーラム	2
	13日	定例会	フリーマーケット出店について、今後の予定他	21
10月	7日	一時保育	保育ボランティア講座	4
	18日	定例会	新規メンバーの紹介、今後の予定、購入備品について他	23
	23、30日	一時保育	自分表現力アップ講座	4
	23日	一時保育	絵本読み聞かせボランティア講座	2
	24日	一時保育	婦人会の会合	4
	29日	一時保育	子育て交流会	6
	31日	フリマ出店	子育てネット主催のフリーマーケットに出店、広報	2
11月	6、13日	一時保育	自分表現力アップ講座	3
	6、20日	一時保育	絵本読み聞かせボランティア講座	3
	12、19、26日	一時保育	食を楽しく学んで作ろう講座	10
	13日	フリマ出店	あったかハートフェスティバルに出店、広報	7
	24日	定例会	副代表交代、今後の予定、ステップアップ講座について他	21
	30日	一時保育	「からだ・性」の健康のために講座	2
12月	4日	一時保育	絵本読み聞かせボランティア講座	2
	7日	一時保育	「からだ・性」の健康のために講座	2
	8日	一時保育	行動療育について講座	2
	21日	定例会	新規メンバーの紹介、子育ての集いについて、保育備品搬入について他	23
1月	13、20、27日	一時保育	保育ボランティアステップアップ講座（後期）	6
	21日	一時保育	レスパイト講座	4
	22日	一時保育	区民フォーラム	4
	20日	定例会	今後の予定、ブックスタートの見学について他	25
	25日	見学	西成保健センターへブックスタートの見学	10
	28日	一時保育	虐待を考えるフォーラム	2
2月	1、15日	一時保育	親子でコミュニケーション講座	4
	4日	一時保育	レスパイト講座	4
	21日	定例会	集合時間の確認、保育マニュアル、今後の予定について他	18
3月	1、15日	一時保育	親子でコミュニケーション講座	6
	15日	一時保育	人権を考える区民のつどい	3
	18、25日	一時保育	PC講座	5
	23日	定例会	今期の反省、副代表の交代、今後の予定他	12

＜今後の課題＞

１．メンバーが増えて、連絡をとるのが大変になってきている。
それによって通信費の補助はしているが、役員の持ち出しになってしまっている。

２．西成青少年会館の講座や子育てネット主催の講座の保育が多く、もっと広く活動を広報しなくてはいけないと思う。　　（活動場所を増やすこと）

３．メンバーの活動に対する意思確認を毎年しなくてはいけない。
（すみれに参加できない状況に生活が変わった人も出てきたので）

４．青少年会館に置いてある保育備品、玩具を他の会場に運ぶのに、車を運転できる一定の人を中心に負担がかかっている。

５．メンバー同士の交流を図る為に、定例会以外で集えるイベントを企画するべきだと思う。

６．普段の活動以外の仕事は、同じ人ばかりに負担が掛かるので、グループの一員であると言う自覚と、皆でこのすみれの活動を持続させて行こうと思う、意識を持ってもらいたい。

⑬　情報誌編集ボランティアグループ（ひまわり）

1. ２００４年度の主な活動

◆２００４年４月：　わが町にしなり子育てネットの小冊子発行に向け編集会議を開く

・独立行政法人福祉医療機構（社会福祉・医療事業団改称）より助成金 200 万受領
※虐待防止活動・子育て支援を目的とする
（内訳：小冊子作成費に 100 万円、ＭＹ　ＴＲＥＥペアレンツプログラムに 100 万円を充当）

◆各団体への取材活動、原稿作成を開始

◆とくとく情報（冊子の欄外に掲載）の記事を育児サークル、ホームページ上で募集

◆大阪人権センターの吉村氏の協力、指導を受ける

◆原多印刷の担当者と打ち合わせを重ね、３回校正後、終校

◆２００５年２月２８日『Ｍａｍａ’ゔぉいす』完成品受け取り

◆２００５年３月２日「第６回　子育ての集い」より配布開始

◆２００５年３月２２日、朝日新聞社の取材を受ける

2. Ｍａｍａ’ｓ　ゔぉいす　仕様

・表　　紙	〔カラー用紙：アートポスト＋PP 加工〕
・本　　文	〔スミ用紙：一色刷り〕
・ページ構成	〔Ａ５版　４４ページ〕
・発行部数	〔４５００部〕
・取材・イラスト	〔ひまわり編集部〕
・編集メンバー	〔９　名〕
・印刷、製本	〔原多印刷株式会社〕

⑭　子育て支援員の活動

地域における子育て支援ネットの構築を目指し、地域の社会的援護を必要とする子育て家庭に対するピアカウンセリング・訪問援護事業を実施し、各種福祉施策につなげていくための検証を行うため、区全域の社会的援護を必要とする乳幼児から中高生までの子供とその保護者を対象として、施設・地域住民等が中心となって組織化され、地域における各種子育て支援の充実に努めている「わが町にしなり子育てネット」において実施する。

以上の事業の目的のために雇用した「子育て支援員２名」は契約期間の平成１６年４月から１７年３月までの１２ヶ月間、次に掲げる任務を遂行した。

支援員を終えて

娘はやっと小学生…。まだまだかけだしの「母」である自分に「子育て支援員」などという役割が果たせるのだろうか…。不安と期待と…おそるおそるのスタートでした。
任期の一年を終えた今も、人様を「支援」できたという実感は全くありませんが、いくつかの「発見」はありました。

「フリーマーケット」や「子育ての集い」をはじめとする様々な子育てネットのイベントに参加したことにより、イベント等開催のかげには（おそらく参加者の方の予想以上の）多くの方たちの努力や協力があること。また、それらを「成功」させてくれる何よりの力は、参加者のみなさまの笑顔（楽しんでいただけたという実感）であること。

これまで、地域の子育て支援を当たり前のように利用し、まるで自分一人（家族は含む）でわが子を育ててきたかのような錯覚をもっていましたが、他区へ転居した友人の話を聴き、「子育てネット」がある町・「子育て支援事業」があふれている町＝西成は、特別な町なんだ！ということ。そして、日ごろ意識していなかった、子育て仲間や施設等の職員の方々との「つながり」がいかに心の支えですばらしいものであるか…を実感できたこと…などです。

イベントでは、開催する側・参加者の方、子育て仲間では、相談する側・される側…
また、時には手を取り合って、協力することもありますね。どの立場の方もお一人おひとり大切で、かけがえのないもの。その時の自身を取り巻く環境（精神的・経済的なものなど）によって、誰しも、どんな立場にも…立ちうる可能性があるのですよね。

「私っていつも人に相談したり、悩んでばかりなんだよな～」ふとそんなことを思ってしまう方も決してご自分を卑下しないで！あなたの心の内を聴き、わが育児を振り返ったり、自分を奮い立たせたり、勇気をもらったり…そんな方がきっと身近にいらっしゃることと思います。そして、今の育児で思い悩んだことは、きっときっといつの日か、どこかで誰かを守ったり支えたりする「力」になるはずなのです。

そんな、ささやかだけど温かな「つながり」こそが、～わが町にしなり子育てネット～の源となるとても大切な部分ではないかと思うのです。

最後になりましたが、一母親である私を見守り、まさに「支援」して下さった子育てネット加盟団体のみなさま、精神的にも実務面でも支えてくださった子育てネットボランティアのみなさま、そして様々なイベントや講座に参加したり、企画のためにアイデアやアドバイスをして下さった子育てサークルや一般のお母さまたちへ…この紙面をお借りして心からの感謝の気持ちをお贈りしたいと思います。ありがとうございました。

2004 年度　子育て支援員　高岩　薫

子育て支援員という仕事

子育て支援員という仕事を、前支援員のお二人から引継ぎ、なんだか無我夢中で 1 年間させてもらったような気がします。　子育てネットに関わり、人と人のつながりの大事さ、また、つながり続けることの難しさをも教えてもらいました。　親子広場で触れ合った子どもたちの笑顔。ボランティアの皆さんの底抜けに明るい笑顔。また仲間に支えられてのこの 1 年本当にありがとうございました。

多くのことを学ばしてくれまた、支援員としてチャンスを与えてくれた小掠代表や、いろいろ戸惑うこともありましたがその度に助言をいただいた方々も、本当にありがとうございました。

この先どんな事があっても、教わったことを忘れずに、一人はみんなのために、みんなは一人のために〈いつでもどこでもみんなで子育て〉を実践していければと考えています。

2004 年度　子育て支援員　川辺　康子

・子育てサポーターによる子育て相談事業

1）事業目的と子育てサポーターの役割：

子育て中の保護者と近い立場である子育てサポーターが、子育て相談の窓口となることで、専門機関との接触を躊躇しがちな親子からの相談を、より受けやすい環境を設定したり、日常のこと細かな子育てへの不安や悩みを気軽に相談できる機会を提供することを目的とする。子育てサポーターは、相談者の気持ちに寄り添い、その方が抱えておられる問題を聴き、ケース内容・必要に応じて子育てネット加盟の各専門機関等を紹介したり、橋渡しをする役割を果たす。

2）受付窓口：子育てネットルーム内に専用の相談電話を設置

3）受付日時：毎週水曜日 10 時～16 時(2004 年 7 月～2005 年 3 月末までの約 9 ヶ月間)

4）相談件数：のべ 38 件（うち 2 件は専門機関に確認の上、訪問対応）（22 名）

＊相談者はすべて子育て中の母親

5）相談内容の特性：

相談内容については、子育てに関する素朴な疑問や悩みから生活への不安、地域でのつながり作りについてや、家族の介護問題など非常に多岐にわたるものであった。（詳細については実施報告書をご覧ください。）　これらのことから、子育て中の母親は、子育てのみならず、生活に関わるさまざまな問題を抱えているケースの多いことがうかがえる。

6）相談内容への対応状況：下表参照

①　電話相談のみ	11 件
②　講座等の紹介・資料提供など	6 件
③　一般の母親からの協力・アドバイス	5 件
④　専門機関紹介・協力	16 件
合計（のべ）	38 件

7）本事業の意義と反省

◇ のべ 38 件の相談件数のうち 16 件については、何らかの形でのリピーターであったことからも、「細かな問題も気軽に」「相談者と同じ目線での対応」という点では、有意義であったと思われる。

◇ ケースによっては、「相談者と同じ目線にいる子育てサポーター」イコール「友人」と解釈をされる方もあり、公私の区別という点では難しい問題もあった。

◇ 非常に重い問題を抱えておられるケースであったが、（ご本人の意思により）専門機関につながることを望んでいただけない場面もあった。子育てサポーターだけの対応では力量的に限界もあるため、今後同様の事業を行う場合には、様々な…特殊なケースを想定して、より掘り下げた準備が必要であると感じた。

◇ ６）の②～④の対応については、「子育てネット」ならではのネットワークによるもので、子育てネットの意義（連携・多角的な対応など）を改めて感じるものであった。

8）終わりに…

本事業における相談の半数以上は、一般のお母さま方からの情報提供やアドバイス・子育てネットの各加盟団体（敬称略・順不同：子育てネット役員、西成子育て支援センター、西成児童館、トライ！あんぐる、ボランティア・ビューロー、芦原病院女性科、ファミリーサポートセンター西成、トモノス西成、区保健福祉センター、市立玉出幼稚園、たんぽぽ、にしなり子育て情報館他）のご協力により、より充実した形での対応を行うことができました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

2004 年度　文部科学省家庭教育支援総合推進事業

「中高生のからだ・心・性についてのアンケート調査」結果報告

Ⅰ．本事業の趣旨

現在、大阪市２４区に設置されている「児童虐待防止連絡会議」に先がけて、２０００年発足した　「わが町にしなり子育てネット」は、西成区内の子育てサークルや、子育て支援･子どもの虐待防止事業にたずさわる官民諸機関（現在 66 団体）が参画する裾野の広いネットワークである。

この活動実践は多岐にわたって展開されてきたが、「わが町にしなり子育てネット」では、「思春期」という第二次性徴期から社会的な巣立ちに向かう、「個」としての人間的成長における重要な時期に現われる子育て・子育ちをめぐる課題について、個別家庭や学校内の問題とするのではなく、地域の多様な職種や立場の資源を集めた解決志向を模索していけないかと考えた。

そこで、あらゆる人びとが、他者とのつながりや生命を尊重する教育機会を受け、子育ての意義についての理解を深めることを目的とし、学校教育・家庭その他における教育・啓発を推進している施策＝文部科学省　家庭教育支援総合推進事業を受託、まず思春期の人たち自身の意識や行動を知るために「中高生のからだ・心・性」の健康という切り口で、主に西成区内の中学生・高校生を対象に、大阪市教育委員会・大阪府教育委員会ならびに全９学校現場の協力をいただいて「2004 年度　中高生のからだ・心・性についてのアンケート調査」を行った。

このアンケート調査結果報告の集いを行うことを通して、思春期の性を中心とした課題についての地域の関心と資源を集め、相談しあえる場をつくるなど、子育て･子育ち環境向上への一助とすることが、本事業の目的である。具体的には、調査結果をもとに「わが町にしなり子育てネット」主催による「高校生の意見をきく会」およびシンポジウムを開催、当事者や保護者、地域のさまざまな職種が集まって意見交換の場をもつ。

Ⅱ．本企画の概要

文部科学省の家庭教育支援総合推進事業が基調としている人間尊重と性の健康に関する教育・啓発の推進に則った形で「2004 年度中高生のからだ・心・性についてのアンケート調査」をすすめるにあたり、各専門機関の協力を得て、教育・保健・医療各職種からなる検討会を発足し、調査の枠組みについて議論を行なった。

これをふまえて、アンケートの内容は以下の観点からしぼられた。

1、 中高生の性に関する意識と行動について、現状を知る。

2、 中高生の自尊感情と日常の安心感について、現状を知る。

3、 自尊感情、自己肯定感のありようと性別の差異や性行動との関係など、今後の検討課題を導く。

Ⅲ．調査の方法

調査対象は、西成区を主とした中学校6校、高等学校3校の計9校の在学生。

子どもたちが調査を安心して受けとめられ、プライバシーが保護されるよう、以下の点で配慮を確認した。

①質問紙と回答紙は別に作成し、ともに回収した。

②無記名提出とし、学年、年齢、性別は自己選択できるようにした。
③回収は実施教室の場で行い、当人以外の目にはふれない形で封印することとした。
④実施日、時間帯については各校において検討の上、個人のプライバシーが確保され、落ち着いて回答できる環境が作られた。
⑤当日欠席者に対する後日の個別調査は行なわない。
⑥中高生向けのあいさつ文には、実施母体と調査の目的について説明した。
また「あなたが答えたくないところがあれば、それは無理に書かなくてもかまいません。」と明記した。
⑦各機関には、調査後に、性の健康その他について生徒からの相談があれば、それも成果のひとつとして対応していただけるよう依頼した。

Ⅳ. 調査の実施

回収数　　２７４１名
有効回答数　２６３８名
＊大項目が4項目以上無記入のものは、今回質問項目間の関連が把握できないため無効回答とした。

なお、各校における調査時の生徒たちの反応、態度や回答用紙への自由記載内容や消しゴム跡などから判断すると、今回協力してくださった中学校、高校の生徒たち回答者は、自尊の感情や性の健康に関するふみこんだ質問に対しても、まじめに取り組んで回答されていることがうかがえた。

Ⅴ. 結果

1、この事業を通して見えてきたもの

中高生のからだと心、性についての意識と行動の一端を明らかにしようとした今回の調査は、実施準備の段階からシンポジウムの企画の過程においても、多くの学びをもたらした。その第一は、各専門職種であっても、性教育を受けてきていない親世代が、思春期の性の取り扱うことへの不安が浮き彫りになったことである。アンケート実施時や、その後の中高生たちの反応と、一方の大人たちの受けとめとの対比が大きく、こと家庭においては、思春期の性教育は、手付かずの領域であるといった現状が見えてきた。

今回の調査を通じて、性教育については個人の経験と価値観だけで子どもにかかわるのでなく、当事者、そして家庭、学校、地域のさまざまな立場、観点から、「生命尊重」や「他者との豊かな人間同士のつながり」をもたらす教育について発言していくこと、そして思春期を視野に入れた子育て・子育ちの課題と性の健康がどのように関連しているのか、さらに議論を深めながら、必要な視点を共有していくことが、つぎの課題として明らかになったといえる。（アンケート調査結果は　別途報告書を参照してください）

この内容について、3月4日、府立松原高校の「るるくめいと」の予防啓発劇の上演もいれた結果報告シンポジウムが約１００名の参加者を集めて行なわれ、継続して取り組んでい課題であると確認された。

以上。（文責　　芦原病院　女性科）

2004 年度　文部科学省家庭教育支援総合推進事業　実施報告
ころころくらぶ「産みたいあなたへ」冊子づくり

10 代の妊娠・出産支援

西成、浪速を中心に、199７年頃から 10 代の妊娠が急速に変化、産みたい 10 代が急増していくという現象が始まり、それはやがて全市的、全国的に拡がる傾向を見せていった。「わが町にしなり子育てネット」参画団体の芦原病院において、それまでは全国の傾向と同じく分娩：中絶比がおよそ３：７であったものが、1997 年は 10 代で妊娠した人のうち、中絶の転帰をとった人が 51.2%、99 年には出産が 5 割を越えた。2000 年には中絶は 31.2%に下がり、7 割近くの 10 代が出産を選択した。総分娩件数に占める 10 代の割合を見ても、全国では 1997 年から９９年当時 0.6～0.8%であったのが、芦原病院では 5.3～10.8%。同時に当院では年間の分娩件数が 300 件を切る状況もあり、この 10 代以外は少子化の傾向が進んで、2004 年度ついに病院の分娩機能体制を停止せざるを得なくなったのであるが。

多くは、口コミによって芦原病院に集まってきた、「産みたい」１0 代たち。
しかも、初診時の妊娠週数が４週、５週といった非常に早期からの来院も、めずらしくは無かった。他所では 10 代の妊婦というだけで白い目でみられたり、説教されたりした経験をもつ人も少なくなかった。そして、中には親の反対を予想して、人工妊娠中絶術が法的にできなくなる時期まで妊娠を告げないまま、母子手帳を受け取り、他院で妊婦健診してきていた人も複数、見られた。

「ころころくらぶ」誕生の経緯

当時、芦原病院と浪速・西成両保健所（当時）とは、さまざまな地域保健活動における課題を分担するための会議を定例月１回開催しており、その中でも１０代の妊婦さん、親子への支援について、議論が続けられていた。このことを踏まえて両保健所との拡大会議の場で「10 代妊娠出産支援プロジェクト」を提起。

病院では、従来から妊娠期、産褥を通して家庭訪問や個別相談で対応していたが、産後の訪問の後、いつまでも病院とのかかわりは続かない。乳児健康診査の場もチャンスではあるが、地域に根付いた支援が必要と思われた。１０代にとって、高年齢のおかあさんと一緒の地域の母親サークルなどには気後れして参加しづらかったり、専門機関のアドバイスにしても、ともすれば「保健指導」型の押し付けとなりがちなことも経験していたため、地域の中に、毎月１回でも 10 代妊婦や親子が集まってくつろいだり、情報交換ができる、ゆるやかな「安心の居場所づくり」が必要なのではないか、と提案したものである。

これを受けて、さっそく独自に地域の出産の状況を調べた西成保健所の判断と、子育て支援に携わる地域の人びとの理解によって、大阪市西成保健所（当時）の主催、芦原病院後援の形で、10 代で出産する人たちが集える場所「ヤングママ・プレママプラザ（仮称）」を 2001 年 1 月にスタートさせることができた。

この時、芦原病院は同年に発足した「わが町にしなり子育てネット」の存在、西成保健所や児

童相談所をはじめ、さまざまな公的機関と、幅広い民間の団体が協働していることを知り、参画していくことになった。

「ころころくらぶ」とネットのつながり

いずれ 10 代のママたち自身がネーミングしてくれることを期待して、仮称で始めたものが、やがて参加者によって「ころころくらぶ」と名付けられた。「ころころ」の名は、2つの意味を持っていた。まず1つに「親も子も、初めてだらけの子育て。雪だるまみたいにころころところがりながら大きくなっていこう」という意味。それから、「がんばる10代のままさん。いつもほがらかにころころ笑っていたいね。」こんな意味がかけあわされたものだ。最大で40名の妊婦さんや親子、常時10組程度の親子、妊婦さんが、毎月第4金曜日の午後から西成青少年会館に集い、たのしんでいる。

２００３年には西成青少年会館で開かれた「わが町にしなり子育てネット」主催の交流会、親子焼肉パーティーにころころくらぶのメンバーも６組の親子が参加。ふだん、こうした集まりには参加していない若い夫婦も楽しんでおり、ころころメンバーのおかあさんに、地域の年上のおかあさんが自分の相談を持ちかけるなど、うちとけた場面も見られた。

「産みたいあなたへ」冊子づくりへ

現在 5 年目に入ったころころくらぶは、この春、ピアサポート、ピアエデュケーションの一歩進んだ取り組みを花開かせることができた。「わが町にしなり子育てネット」が母体となって、文部科学省家庭教育支援総合推進事業の委託により、ころころくらぶが 2004 年度に約１年かけて作成してきた、10 代で出産して子育て中の母親から、これから出産を向かえる 10 代の妊婦さんに向けたエールとして、小冊子を発行することができたのである。

「産みたいあなたへ」というタイトルをつけた、ころころくらぶのメンバーの思いがいっぱいにつまったこの冊子は、文部科学省家庭教育支援総合推進事業の委託元である大阪市教育委員会および大阪市健康福祉局健康づくり推進課の理解を得て、市内２４区において、母子手帳発行時を活用し、１０代妊婦の希望者に直接手渡ししていただけることとなっている。

これから出産し、子育てをしていく 10 代たちにとって、先輩ママたちの出産体験やその後の様子を知ることは、日常生活においては出会う機会も少ない、自分以外の 10 代の母親たちの存在を知り、さまざまなモデルが現存することに気づくチャンスにもなる。

また、自分たちでつくった冊子を世に送り出し、これから出産する１０代の人たちに直接の自分たちの経験を伝える、という経験をするころころくらぶのメンバーにとっても、自己効力感、自己肯定感に結びつく、5 年目にふさわしい取り組みとなった。

さらに、この事業を地域に応援してもらえたことが、「白い目で見られがちな 10 代の妊娠・出産」への社会の側の認識に少し風穴を開ける結果ともなり、地域の子育て支援関連の行事に、ころころくらぶのメンバーが「参加してみようかな」と思えるようになった、など大きな効果をうんだ事業であった。「にしなり子育ての集い」などへの参加も見られたり、「わが町にしなり子育てネット」が受託した、文部科学省　家庭教育支援総合推進事業助成で行なった他の事業「中高生のからだと心、性についてのアンケート」報告集会には、ころころくらぶサポーターの西成保健福祉センターの担当保健師や芦原病院女性科の助産師もシンポジストとして出席することを知ったころころくらぶのメンバー２組が、集会に参加、発言するなどの成果も生んでいる。

「こんな集いに行ったのは初めて。また誘ってほしい」などの感想がきかれた。
３月２５日の「産みたいあなたへ」の完成版鑑賞会では、冊子の完成を祝ってジュースで乾杯、その際に「今度は何か人の役にたつようなことをやってみたい」との声もきかれた。

なぜ支援事業が実現できているか

西成区という地域は、被差別部落、日本有数の日雇い労働寄せ場「釜が崎」、在日朝鮮人・韓国人が多く住む街、また単身高齢者や、生活保護世帯が多いといった、さまざまな生活上の困難を抱えた人々たちが多く、地域外からの流入も多いため、課題の多さ、複雑さ、福祉施策をはじめ、社会のケア力が求められ、実践の中で鍛えられてきた地域である。
さまざまな課題への対応は、一機関だけでは完結されず、多くの機関との連携が日々必要になってくる。そんななかで、官民協働の子育て支援ネットワークがつくられ、官の決定権と集約力、民の迅速さと立場の違いを越えて直接対応、交渉できるよさが合わさって、実効性のある支援が行なわれてきた経緯がある。
こうした基盤があり、「いのちを尊重しあう」取り組みや、「子育て・子育ち支援」関連のさまざまな事業が多職種連携のもとで行なわれ、大阪市の 24 区に設置された「児童虐待防止連絡会議」にさきがけたネットワークの実働、「児童虐待防止･子育て支援連絡会議」も西成から始まっている。
具体の事業について、とりわけ、個別のグループを対象とした事業においては、ころころくらぶに見られるように、当事者の力を引き出しあえる、ピアサポートの手法を活用してきた。このことが、自発性、事業の継続性に結びついていると考える。

地域の子育ち・子育て支援の一モデルとして

旧来のように、専門家の知識や支援の手を差し伸べるあり方、一方的に与える支援ではなく、ケアの共有という視点と、具体的な手法として共に仲間が助け合うピアサポート、仲間同士の教育機能；ピアエデュケーションの方法が、10 代妊娠・出産支援においては、特に実効性をもつということが、ころころくらぶの発展のなかで示されてきた。
そのケアの共有という視点、ピアサポート・できれば多職種連携による、手を出しすぎないアドボケート（見守り）。このことを基盤に、個別な支援が必要な場合には、必要なものを足していけばよい。しかし、どんな場合にも　当事者本人を「問題解決能力がない人」
「助けてあげないといけない人」というダメージモデルで扱えば、いつまでも救済が必要な人としての位置から抜けにくくなり、支援の側も本人の意思を確かめることなく、家族、親などの周囲の「しっかりしていそうな人」の方を信頼していったりなど、悪循環に陥っていくのではないだろうか？
10 代妊婦や母親たちは、情報をほしがっている。また、一方的な価値観に基づく年長者のおしつけに辟易もしている。情報提供は行政の窓口だけでなく、病院や保育所、スーパーマーケット、地下鉄の駅、学校、ベビー服屋、おもちゃ屋、銭湯、などなど、地域のあらゆる場所、できるだけ多様な場で広く提供すること、また乳幼児健診の場などの活用をし、行政だけでなく民間の情報も交えて本人が選べるような提供の仕方が必要であると考える。そして、採算性の上でも、大きな資金はいらない、ころころくらぶのような事業、ピア（同質のメンバー）が自由に集まることのできる場所の工夫、それをバックアップするための拠り所となる政策が望まれる。

事業名　10 代の妊産婦、母親を対象とした講座（3 回シリーズ　託児つき）
実施場所　西成青少年会館　和室
ａ，各回の開催日時および内容、講師（肩書き）　ｂ，参加者数　ｃ，一時保育人数

9 月 24 日（金）１４：００～１６：００
10 代で妊娠出産をした子育て中の母親「ころころくらぶ」参加者で懇親、出産してよかったことや今困っていることについての話し合い
講師兼託児：西成保健福祉センター保健師　高橋、趙、村上徳子主幹
　　芦原病院　助産師　松浦　看護師　伊藤
１４名参加（うち子ども 7 名）

10 月 22 日（金）１４：００～１６：００
10 代で妊娠出産をした子育て中の母親「ころころくらぶ」参加者で、10 代のママから 10 代の妊婦さんへのメッセージ「産みたいあなたへ」の冊子作成の検討
講師兼託児：西成保健福祉センター保健師　高橋、趙、
　　芦原病院　助産師　松浦　看護師　伊藤
２６名参加（うち子ども１５名）

11 月 26 日（金）１４：００～１６：００
10 代で妊娠出産をした子育て中の母親「ころころくらぶ」参加者で、10 代のママから 10 代の妊婦さんへのメッセージ「産みたいあなたへ」の冊子　原稿づくり
講師兼託児：西成保健福祉センター保健師　高橋、趙、
　　芦原病院　助産師　松浦　看護師　伊藤
外部講師：　フリーライター　社納葉子氏
１２名参加（うち子ども６名）

12 月２２日（水）１０：００～１２：００
「産みたいあなたへ」の冊子　編集会議
講師：芦原病院　助産師　松浦　看護師　伊藤
外部講師：フリーライター　社納葉子氏、編集者　酒多隆子氏

１月 28 日（金）１４：００～１６：００
「産みたいあなたへ」の冊子　編集者よりメンバーにアドバイス　具体案検討
講師兼託児：西成保健福祉センター保健師　高橋、池田
　　芦原病院　助産師　松浦　看護師　伊藤
外部講師：　編集者　酒多隆子氏　　フリーライター　社納葉子氏
２２名参加（うち子ども１１名＋妊娠中 1 名）

２月 25 日（金）１４：００～１６：００
「産みたいあなたへ」の冊子　2 回目のゲラをもとに、講座開催
講師兼託児：西成保健福祉センター保健師　高橋、趙　健康福祉局　野原主幹（局内取材）
　　芦原病院　助産師　松浦、　看護師　伊藤
外部講師：　編集者　酒多隆子氏　　フリーライター　社納葉子氏
１５名参加（うち子ども８名＋妊娠中 1 名）

３月 25 日（金）１４：００～１６：００
「産みたいあなたへ」の冊子　完成版鑑賞会！！
講師兼託児：西成保健福祉センター保健師　高橋、趙
　　芦原病院　助産師　松浦、井田　看護師　伊藤
外部講師：　編集者　酒多隆子氏　　フリーライター　社納葉子氏
２７名参加（うち子ども１７名＋妊娠中 1 名）

以上。（文責　芦原病院　女性科）

⑰　広報･宣伝

機関紙ハギッズの配布・ホームページの運営の他、今年度は、子育てネットリーフレットの発行、子育て情報誌「Mama' s う゛ぉいす」の発行・配布などを行い、子育てネットの活動紹介や事業の周知を行ってきました。また、行事・講座案内等のチラシの配布・区政だよりや区内の情報誌掲載等、積極的に行ってきました。また、にしなり子育て情報館によるメールマガジン発行などの新たな方法も加わり、より効果的な情報促進の手法の開拓を検討中です。

⑱　組織

２００４年度、新たに「にしなり子育て情報館」「はーとクラブ」「トライ！あんぐる」、公立幼稚園(３ヶ所)、学童保育所(４ヶ所)が加わり、加入団体は２００５年５月現在６６団体となりました。

⑲　財政

２００４年度は引き続き、善意銀行・大阪府遊技業組合善意の箱委員会西成支部の寄付・西成区社会福祉協議会の事業助成を受け運営することができました。

また、助成金事業として、社会福祉医療機構・キリン福祉財団・家庭教育支援総合推進事業（委託)、による各種事業を行いました。また、緊急地域雇用創出特別基金事業による子育て支援員２名を配置、ネットルームに常駐し、子育て支援員事業を展開、多彩な活動をすすめることができました。

⑱　その他

Ｉ．クリスマス チャリティー・イベント

「こどもの里を守る会」（こどもの里後援ボランティア）代表の 向井 洋子 さんのご好意により、「こどもの里」と西成近隣の全てのこども達（または親子）を対象に、企画実施していただいたものである。

❖とき・ところ　2004 年 12 月 4 日（土）14 時～　大阪フィルハーモニー会館 メインホール

❖公演内容　　J's 倶楽部　ピアノと語りによる ～たいせつなきみ～朗読劇

（同日 17 時より 三浦 光世 氏（作家：故三浦 綾子氏のご主人）によるチャリティー講演会が行われた。）

当日は、こどもの里をはじめ、山王こどもセンター･北津守保育所･聖化保育園･区内学童保育所などの団体参加と、西成近隣の親子連れなど約 300 名が来場、会館メインホールがほぼ満席状態で、参加者は、クリスマスにちなんだ歌や心にしみる朗読劇を楽しませていただいた。

Ⅱ．キッズクッキング開催報告

・開催日時：平成１７年３月１２日（土）　１０時～１２時
・参加者　：大人７名　子ども１０名　スタッフ８名
・会　場　：トモノス西成　調理室
・参加費（材料代）３００円
・メニュー：マッシュポテトのロールサンド
フルーツのヨーグルトあえ
ミネストローネ風スープ

総勢１７名の参加があり、とてもにぎやか雰囲気で、調理に入る前にはパネルシアターや参加型のミニゲームなどで、子ども達の関心を引きながら進められました。子どもが作りやすくまた食べやすいように工夫がされていました。
開催に際しまして、準備から進行までをしていただいた、大阪市食生活改善推進員協議会の方にこの場をお借りしましてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

Ⅲ．第８回 あったかハートフェスティバルへの参加

❖実施日　2004 年 11 月 13 日（土）10 時～15 時 30 分
❖ところ　南津守さくら公園周辺

わが町にしなり子育てネットからは、「ラポール」（西成児童館ボランティア）・「保育ボランティアグループ☺すみれ」・「わが町にしなり子育てネット」（一般の母親ら 4 グループの合同店）の 3 ブースが出店し、地域の方々と交流する機会を得た。ネットの合同店において、手作りのお菓子と石鹸を出品した 南方 美紀さんには、後のレスパイト講座で講師をお願いし、新たなつながりができたことも喜ばしいことである。

Ⅳ．情報発信連絡会の開催

子育てネットで現在情報を発信しているグループが集まり【ホームページ編集委員会　たんぽぽ・ミニコミ誌ハギッズ編集委員会　さくら組・にしなり子育て情報館・情報誌編集グループ　ひまわり】の 4 グループで、情報の共有化など取材の簡素化を図るために、話し合いが行われました。2005 年度も継続して情報交換会を開催し情報の共有などを進めていき、情報を受ける側の親たちが何を知りたいのかというのを、キャッチしていければと考えています。

Ⅴ．はーとクラブの活動

子育てネットに関わるパソコンボランティア増員を目指し、2004 年 5 月より 7 月にかけて開催したパソコンボランティア養成講座（講師：「ぽこ あ ぽこ」 森野 和子氏・2 時間×8 回）修了者を対象として設置した「個人登録窓口」である。“はーとクラブ”という名称は、講座終了後の茶話会に参加されたみなさんからの発案によるもので、講座修了者 14 名のうち、8 名が登録された。

その後、パソコンに限らず、講座の講師・防犯活動・イベントスタッフなど、年齢・性別を問わず、広くメンバーを募集したが、具体性にも欠け、受け皿となるべき子育てネットルームの体制も整えられなかったため、積極的な活動には至らなかった。

唯一の活動としては、メンバーの山崎 友紀さんが「あい・eye・ネット」～こどもの里特集～の参加者募集ポスターを作製してくださったことである。幼いお子さまの子育てをしながらの作業であったことに、心よりお礼申し上げます。

〔今後の課題〕

子育てネットの存在を知り、興味をもって下さった方々とのせっかくの出会いを無にしないためにも、機会があれば登録者の方へのお声かけをし、つながりを深めて行きたいものである。

ただし、そのためには、子育てネットの受け入れ体制の整備や、連絡方法（現在は各々の方への FAX や郵送など）の簡略化などを検討することが不可欠である。

６．助成金事業

①　キリン福祉財団助成事業

平成 16 年度事業実施報告書

平成 17 年 3 月 30 日

（財）キリン福祉財団　御中

（〒557-0034）
住　所　　大阪市西成区松 3-2-36　大阪市立西成児童館内
団体名　　わが町にしなり子育てネット　　㊞
代表者　　小　掠　　昭　　㊞
℡　06-6658-9155　　FAX　06-6658-9155

貴財団より助成を受けた事業について、下記の通り実施報告いたします。

1．事業名	子育て応援ボランティア育成と組織化
2．事業目的と概要	（目的） 子育て家庭支援の一つとして母親の社会参加をいっそう進めるため各種の講座の参加や親のグループ活動を支えるため、子育て応援ボランティア(保育ボランティア）の育成と組織化。 子育て応援ボランティアが自主的なグループ運営を進めるためのサポート事業。 （概要） ①　保育ボランティア講座の開催 ②　保育ボランティアグループづくり ③　保育ボランティアグループの運営 ④　子育てママが参加可能な講座、講習等に保育付きの場面を増やせるよう実施主体に呼びかけ。
3．　時期 実施内容 参加者数	**①　保育ボランティア講座の開催** （　初級講座　） 実施日：2004 年 5/25・6/1・6/8・6/15（全 4 回） 内　容：「子育てボランティアとは」「子どものあそび」「子どもと絵本」「子どもの安全について」 参加者：20 名 （　ステップアップ講座　） 実施日：2005 年 1/13・1/20・1/27（全 3 回） 内　容：「子どもの権利について」「病児と食事について」「現代の子育て事情」 参加者：25 名 **②　保育ボランティアグループづくり** 4 月に 9 名でスタートしたわが町にしなり子育てネットの保育ボランティアグループ「すみれ」に初級講座終了者から 15 名が加入、9 月に子育てネットと連携して青少年会館が主催して実施した保育講座から 19 名が新たに加入し 43 名の会員数となった。 **③　保育ボランティアグループの運営** 4 月に会則、役員（代表、副代表、会計）を決め保育ボランティアグループ「すみれ」の組織を整え、講座修了者の受け入れ体制を作る。9 月より毎月 1 回定例会を開き会の運営を行った。わが町にしなり子育てネットは、自主的に活動できるようサポートした。

4．事業成果	わが町にしなり子育てネットはいつでもどこでもみんなで子育てを合い言葉に活動してきましたが、16 年度は貴財団の助成を受け、保育ボランティアの育成と組織化を進め、以下の事業成果を得ることができました。 1. 保育ボランティアグループの組織化 9 名でスタートした保育ボランティアグループ「すみれ」は講座修了者を中心に 43 名が加入し、組織的な活動体制ができたこと。 2. グループの子育て支援の活動 別紙「事業成果報告」のとおり区内で実施された講座、集い、フォーラム等で 33 回の一時保育（有償・無償）の活動を行った。また子育て交流をねらいとしたリサイクル活動（フリーマーケット）や障害者の交流を中心とする「あったかハートフェスティバル」にも参加するなど活動の幅を広げてきた。 3. 区内で実施される保育付き講座等を広げる活動の成果 行政や関係団体に呼びかけ、保育付きの講座、フォーラム等で子育て中の親が参加できる場作りをすすめてきた。特に、地域福祉活動計画西成区アクションプランのフォーラムに保育の場を設け活動した。
5．課題と今後の活動計画	（グループの運営について） 1. メンバーが増えて、連絡体制や調整、事務処理に一部の人たちに運営の負担がかかったりしているので運営の工夫が必要となってきた。 2. 一時保育が、まだ関係団体の事業中心となっているので、もっと広げてゆく活動に力を入れたい。 3. グループの活動を知ってもらうため広報に力を入れる。 （今後の活動計画） 1. 大阪市の実施しているファミリーサポート事業に、メンバーが提供会員にも登録できるよう、子育ていろいろセンターと連携して講座参加をすすめていく。 2. 一時保育の場を広げていく活動 3. メンバー同士の交流を図るため定例会以外で集えるイベント等の企画実施。 4. 西成区ですすめられている地域福祉活動計画アクションプラン作りに積極的に参加し子育て中の親が参画できる場を作っていく。 5. 保育ボランティア講座の開催（初級、ステップアップ講座）
推薦者のコメント	子育て中の親が主体的に社会参加できるひとつの手段として、保育ボランティアグループの育成･組織化に取り組んでこられました。 特に子育てボランティアがいることによって、子育て中の親が安心してイベント等に社会参加し、そこで出会った他の親と助け合えるようになる相乗効果が生まれたことは大きな成果である。 今後、大阪市内各区で策定が進む地域福祉活動計画にも積極的に参画し、子育てに関する分野において大きな役割を担うことが期待されます。
	団体名　社会福祉法人 大阪市西成区社会福祉協議会 会長　乾　繁夫

② 福祉医療機構　助成事業

事　業　実　績　報　告　書

事　業　名	児童虐待防止のための親支援・広報・研修事業
事業の実施状況	① 児童虐待に悩む「親の回復支援プログラム」を開催 開催日時：平成１６年８月３１日～１２月１４日の毎火曜日 全１３回＋準備会＋同窓会 開催場所：大阪市立西成青少年会館 保育場所：西成子育て支援センター（市立松之宮保育所内） 参加人数：１２人（虐待で悩む親） 講師リスト スーパーバイザー　（延べ１２回） ：児童虐待問題専門家　森田ゆり氏（謝金対象） ファシリテーター　（延べ３９回） ：親の回復支援プログラム専門職（謝金対象） 芦原病院女性科看護師．伊藤悠子．松浦洋栄．井田艶子 講座内容：(1) 安心な出会いの場 (2) 親と子のエンパワメント (3) 分かち合う「私は大切な人です」ワーク (4)「心のエネルギー量」尊重の燃料 (5) 気持ちを聴く練習･気持ちを語る練習 (6) 体罰の６つの問題 (7) 体罰がもたらす親と子への影響　(8) 体罰に代わる10のしつけの方法　(9) 自己肯定感・否定的ひとり言の掃除 (10) 自分をほめる練習・ほめられる練習・子どもをほめる練習 (11) アサーティブネス･人の力をかりる (12) 女らしさ・男らしさ・母親らしさの囚われ・男女役割分業社会のひずみ (13) ＭＹ　ＴＲＥＥ 上記講座のため ・チラシを1,000部作成．配布先：府市児童相談所.各区の家庭児童相談室．府市の保健センター等児童虐待担当機関.団体.施設 ・受講者の子どもの保育：（１３回延べ６５人．所費対象） ・他に申し込み者への通信．面接．受講者用の資料作成．教材準備等の事務関係業務を行った。 ② 児童虐待防止の講演会及び研修会を開催 (1) 実務者を対象とした児童虐待防止講演会を開催 開催日時：平成１６年１０月８日 開催場所：大阪市立西成区民センター 参加人数：１０９人（大阪府.市の各専門機関．施設等の虐待防止担当者） 講師：児童虐待問題専門家　森田ゆり氏（謝金・旅費対象）

	(2) 親や実務者を対象とした児童虐待防止講演会を開催 開催日時：平成１７年１月２８日 開催場所：大阪市社会福祉・研修情報センター 参加人数：１４０人 講師：児童虐待問題専門家　森田ゆり氏（謝金・旅費対象） 保育：有償保育ボランティア（１回１０人．所費対象） (1)(2)の講演会開催のため チラシを300部作成．配布先：府市児童相談所．各区の家庭児童相談室．府市の保健センター．小中学校等児童虐待担当虐待防止関係機関．団体．子育てサークル等 (3) 実務者を対象とした児童虐待防止研修会を開催 開催日時：平成16年7月8日．9月9日．10月14日．全３回 開催場所：大阪市立西成青少年会館 参加人数：延べ74人（西成区内の保育所等の虐待防止実務者） 講師：児童問題専門家(当団体役員)３名（謝金．旅費対象外） 研修内容：改正児童虐待防止法について他 ③ 児童虐待防止・子育て支援の親向け小冊子の編集．発行 取材．編集活動：有償ボランティア（１０人延べ１５０回．所費対象） 印刷部数：４５００部 発行年月日：１７年３月１日 配布先：区役所.民生委員会.子育て支援関係団体.親.住民等
事業の成果	虐待をしてしまった親、虐待で苦しんでいる親を対象に親の回復支援を中心とした児童虐待防止プログラムを実施した。４カ月にわたるプログラムの結果、親や子どもに変化の兆しが現れ、改めてこのような回復支援プログラムの必要性を実感した。また、実務者と親への啓発活動として児童虐待防止講演会及び実務者研修会を開催した。講演会は予想以上の参加者を集め、関心の高さを実証した。実務者研修会では、改正された虐待防止法を中心に実務者として必要な知識や理念を習得した。また、虐待防止と子育て支援のための啓発・広報活動として小冊子の編集と発行をおこなった。これは子育て中の親たちが企画と取材と編集をしたもので、親から見た虐待防止と子育て支援のハンドブックがより多くの親たちにメッセージとして届けられた。

団体名	**わが町にしなり子育てネット**	**助成金精算額**	**２,０００千円**

③　「家庭教育支援総合推進事業」実施報告書

「家庭教育支援総合推進事業」実施報告書－１

Ⅰ．子育て真っ最中の母親のレスパイト講座

【事業のねらい】
子育て真っ最中で、孤立しがちな母親を対象とし、一時保育付きの講座を提供することにより、日頃の家事や育児の手をとめて「ほっとひと息」ついていただき、今後の子育てネットとの関係を構築することを目的とする。講座内容については、一般の母親から子育てネットに要望のあった「子育て中でも女性らしさを忘れない」「今後の趣味やリフレッシュにつながる」とする数件の中から検討し、決定した。

【実施場所】　　西成青少年会館

【開催日時及び各回の内容・講師】

回	月／日（曜）	時　　間	内容（テーマ）	講師（肩書）
1	11/22（月）	13 時～15 時	COLOR SYMPHONY 色彩交響楽 わたしの心もよう （ｶﾗｰﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ）	ｶﾗｰｺﾐｭﾆｹｰﾀｰ 楊　美加氏
2	1/21（金）	13 時～15 時	手作りｿｰﾌﾟ（石けん）	南方 美紀氏
3	2/ 4（金）	10 時半～正午	ﾈｲﾙｱｰﾄでﾘﾌﾚｯｼｭ	真鍋 知悟氏

【参加者数】　1. 14 名　2. 9 名　3. 11 名　（延べ 34 名）

【一時保育・手話通訳の有無】
一時保育　1. 11 名　2. 6 名　3. 11 名(延べ 28 名)　・　手話通訳　無

【成果・課題・今後の方向】
「子どもとはなれて自分のための時間をもつ」という点で、全回を通して、こちらが予想していた以上に好評をいただき、アンコールの声も多い講座であった。「親子で楽しむ」という講座が一般的であった従来と比較し、このようにニーズが移行してきたとも受け取れる。親・子それぞれ個としての「楽しみの時（または機会）」も大切にしつつ、その中から親子のふれ合いやつながりを感じられる新しい発想の講座提供が、今後の課題である。

【参加者の状況・声】
1.）・久しぶりに自分を見つめなおすことができた。　・無になれた　・自分の心と向き合えた。
・子どものことを一瞬でも忘れられた。　・子どもと離れ集中できた。
・普段出来ないことを十分楽しめた。　・色で心の中をうつせることが興味深かった。

2.)・中学以来にワイワイと何かを作ることができて新鮮な気持ちになってうれしかった。
・今までにない企画で楽しかった　　・やったことのない事をできて楽しめた。
・自宅で一人でするには、材料を揃えるのが大変だが、とてもしやすかった。

3.)・年齢関係なく、色々な話をしながら出来たのでうれしかった。
・家の事や子育てに追われているのでおしゃれ感覚を少しでも身に付けることができ嬉しかった。
・同じ企画をぜひして欲しい。
・子どもを預かってもらえたのでひと息つけた。　・ 時間が短かった。

「家庭教育支援総合推進事業」実施報告書－２

Ⅱ．１０代の妊産婦、母親を対象とした講座

【事業のねらい】　新しい参加者（ころころくらぶ）の拡大。10代の妊産婦、母親、当事者自身の思いを届けたいといった意欲が冊子作りに反映され、孤立する10代への妊産婦、母親への呼びかけにつながればと、考え行われた。

【実施場所】　西成青少年会館　2F和室

【開催日時及び各回の内容・講師】

回	月／日（曜日）	時　間	内　　容　（　テーマ　）	講　師（肩書き）
1	9/24　（金）	14時～16時	冊子内容についての話し合い	西成保健福祉センター 村上徳子主幹
2	10/22　（金）	14時～16時	編集アドバイス・具体案の検討	編集者　酒多　隆子氏
3	11/26　（金）	14時～16時	「ひらめきと思いを形にしよう！」	フリーライター　社納　葉子氏

【参加者数】　11名　（延べ　24名）

【一時保育・手話通訳の有無】　一時保育　28名・手話通訳　無

【成果・課題・今後の方向】

「居場所」としてのころころくらぶのバージョンアップ、参加者間のコミュニケーションを促進して、参加者が多様な感性に触れ、一つの物を作り上げることを通じて達成感、セルフエフィカシーを持つことをめざす。結婚してすでに2～3人の子どもを持つ10代ママ、シングルで子育てをしている10代ママ，これから出産する10代、と生活環境や状況が異なる者の間での交流がより深まった。以降も孤立する10代妊産婦への呼びかけなど、積極的に行っていければと考えています。

【参加者の状況・声】

3月下旬発行予定の「産みたいあなたへ」発行部数3000部・ページ数30ページ（予定）の冊子に、反映される。

III.「中高生のからだ・心・性についてのアンケート調査」

（中高生を対象とした性教育講座）

【事業のねらい】

第二次性微期から社会的な巣立ちへ向かう、「個」としての人間的成長における重要な時期に現れる子育て・子育ちをめぐる課題について、個別家庭や学校内の問題とするのではなく、地域の多様な職種や立場の資源を集めた解決志向を模索していけないかと考えた。そこで、あらゆる人々が、他者とのつながりや命を尊重する教育機会を受け、子育てに意義についての理解を深める事を目的とし、学校教育・家庭その他における教育・啓発を推進している施策＝文部科学省家庭教育総合推進事業を受託、まず思春期の人たち自身の意識や行動を知るために「中高生のからだ・心・性」の健康と言う切り口で、主に西成区内の中学生・高校生を対象に、大阪市教育委員会・大阪府教育委員会ならびに全９学校現場の協力をいただいて「２００４年度中高生のからだ・心・性についてのアンケート調査」を行った。

【実施場所・時期】

・アンケート実施場所：西成区内の各中学校・高等学校
～各学校ごとに実施日が異なる～

・高校生の意見を聞く会：西成青少年会館（参加者：１７名）
～２００５年２月１９日（土）午後２時～４時～

・シンポジウム開催場所：西成区民センター　大ホール（参加者：１５８名）
～２００４年３月４日（金）午後６時～８時半～

【成果・課題・今後の方向】

このアンケート調査結果報告の集いを行うことを通して、思春期の性を中心とした課題について地域の関心と資源を集め、相談しあえる場を作るなど、子育て・子育ち環境向上への一助とすることが、本事業の目的である。具体的には、調査結果を元に「わが町にしなり子育てネット」主催による「高校生の意見を聞く会」およびシンポジウムを開催、当事者や保護者、地域のさまざまな職種が集まって意見交換の場を持つことを企画した。

【参加者の感想】（シンポジュウム参加者アンケートより）

・様々な人の話しが聞けてよい機会だった。学校で性教育を学んできたつもりだったが、自分から進んで知識を広めていく事の大切さを知った。どうもありがとうございました。　・様々な大人たちが「最初に子どもの相談を聴く」人、その中のひとりに自分も入っていると言う事を忘れないでおきたい　・アンケートの集計と分析はたいへん興味深く見せて頂きました。　・大人の方が多くおられる中で、るるくさんの様な若い世代の方が参加されていて、本当によかったです。

その他アンケート総数４５件

Ⅳ．パソコンボランティア講座

【事業のねらい】

初心者パソコン講習修了者のグループにパソコンのスキルアップとともに、仲間作りや、これから子育て中にパソコンを覚えたいと考えている、お母さんのサポート役など役割を担う、ボランティアの養成及びパソコンサークルの立ち上げなどを目的として開催された。

【実　施　場　所】　　西成青少年会館

【開催日及び各回の内容・講師】

回	月／日(曜)	時　間	内 容(テーマ)	講　　師
1	2月22日(火)	午前10時～正午	ホームページ作成講座	磯村　久美
2	3月　1日(火)	午前10時～正午		椋代　推親
3	3月　8日(火)	午前10時～正午		藤田　雅人
4	3月15日(火)	午前10時～正午		藤田　雅人

【参　加　者　数】　　１９名　（延べ５３名）

【一時保育・手話通訳の有無】　　一時保育　２８名・手話通訳　無

【成果・課題・今後の方向】

今後は、子育てネットのホームページなどのボランティアを通じ、さまざまな、活動に積極的に参加していく事で、１人でも多くの親とつながりあえたらと考えています。

Ⅴ．ミニコミ紙編集ボランティア講座

【事業のねらい】

“読んで楽しい!見て楽しい!作って楽しい!子育て情報紙”を作ってみませんか？今どきの子育て事情から、情報紙の作り方のポイントがわかる4回連続講座。子育て応援ボランティア活動に興味のある方、本作りに興味のあるかたが、自分達の読んでみたい本を仲間と一緒に作りませんか？

【実施場所】　　西成青少年会館　２Ｆﾈｯﾄﾙｰﾑ

【開催日時及び各回の内容･講師】

【参加者数】　　各回ともに９名　（延べ　　３６名）

回	月／日(曜日)	時 間	内　　容　（ テーマ ）	講師(肩書き)
1	12/ 1 (水)	10時～12時	本を作るとは？～自分の読みたい本をつくる～	吉村　憲昭(開放新聞社大阪支局　編集長)
2	12/ 8 (水)	10時～12時	取材の仕方～ﾒﾓの取り方･話の切り上げ方～	
3	12/13 (月)	10時～12時	校正について考える	
4	12/17 (金)	10時～12時	編集･構成の仕方について	

【一時保育・手話通訳の有無】　一時保育　24 名・手話通訳　無

【成果・課題・今後の方向】

全４４ページ１色刷り、表紙カラーの情報誌４５００部を 2005 年 3 月 1 日発行予定。
翌年より随時改定作業を随時行う予定。

【参加者の状況・声】

とても勉強になり情報誌の作成と言っても、たくさんの手間ひまが掛かるんだなと思った。
実際にやってみて、為になることが多くて助かりました。

Ⅵ．子育てサポーターによる子育て相談事業

【事業のねらい】

子育てサポーターが、子育て中の親と同じ目線にたって電話相談を受ける。電話相談後、継続してのかかわりが必要なケースなどは、わが町にしなり子育てネットの各加盟団体（専門機関）と連携し、対応する。

【実施場所】　子育てネットルーム（長橋 2-5-33　西成青少年会館内　2 階）

【開催日時】　毎週水曜日　10 時～16 時

【相談件数】　延べ 33 件

【成果・課題・今後の方向】

- 相談内容については、子育て・人間関係・地域のことなど多岐にわっている。
- ケースとして多かったのは、転居後、「地域になじめない」「ひきこもりがちになる」ことや、ひとり親家庭についてであった。
- 幸い子育てネットでは、親子サークルや乳幼児広場・各種講座の開催など、親子の集う機会が多くあるので、連携もとりやすいが、逆に他区への転出者のフォロー・連携が今後の課題であると思われる。

【相談者の状況・声】

- 話しをするだけで、すっきりしたと言ってくれる方。専門機関での対応が必要な方。
- さまざまである。ピアカウンセリングということで極力同じ目線にたっての対応を
- 心がけたが、気安さもあり「友だち感覚」での相談者も見られた。
- 人の心と向き合うことは、公私の区別、判断力、寛容さ…（誤ったひとことで傷付ける
- 可能性もあるので）など、学ぶべきところが多い。
- 今後も相談者の心に添う対応を心がけたい。

Ⅶ．子育てサポーター交流事業（あい・ａｙａ・ネット）

【事業のねらい】

サポーターリーダーが一同に集まり、情報交換や活動における課題と悩み等を交換する場を設け月に一度集まってグループ間の交流を計ることを目的として、開催されている。

【実施場所】　　西成児童館

【開催日時】　　毎月第３木曜日　１０時～正午

【一時保育・手話通訳の有無】　　一時保育・手話通訳とも無。

【成果・課題・今後の方向】

サポーターリーダーが集まる交流の場として始まった事業として位置づけされてきたが名称も新たに～あい・ｅｙｅ・ネット～と改め、どんな人でも気軽に交流できる場として、普段疑問に感じている事や、日常の些細な出来事など集まった人達の他愛のない話の中で、自らが解決していくそんな過程の中で自己の可能性を引き出し、他者との違いを認め色々な角度から、孤立する親たちを一人でも多くサポートしていければと考えています。

Ⅷ．１０代の妊産婦読本「産みたいあなたへ」発行

【事業のねらい】

１０代で妊娠出産をした子育て中の母親「ころころくらぶ」の参加者により冊子の作成が始まり、自分達の思いを形にと言うことから同じ事業を利用し、１０代の妊産婦、母親を対象にした講座を開き、冊子作成に関するアドバイスや疑問点など、専門家による指導・助言などを受けながら、冊子作りを行ってきた。

【　成　果　】　　「産みたいあなたへ」冊子発行へ

●仕様：全 28 ページ　カラーページ　８ページ　２色刷りページ　２０ページ

●印刷部数：２０００部発行

●配置場所：大阪２３区の母子手帳交付場所
各病院に配置予定（希望があれば、大阪府下にも送付可能。）

【　参加者の状況　】

冊子の完成により、多大な効果が予想される。とくに学校中退や不登校を経験している参加者にとっては、セルフェフィカシーのたかまりが子育てへの自信にも結びつく事が期待される。新しい参加者の拡大⇒当事者間での呼びかけがなされ意欲が増していった。また中心メンバーであった最年長の参加者の出産などがあり冊子づくりがあったために、新たなメンバーにまとめ役が引き継がれた事も、特筆すべきことであった。

７．２００４年度　会計決算書

収入の部

項　　目	予算額	決算額	備　考
事業助成金	300,000	300,000	
西成区社会福祉協議会	100,000	100,000	
西成区善意銀行	100,000	100,000	
大阪府善意の箱事業委員会西成支部	100,000	100,000	
特別助成金	4,150,000	4,150,000	
家庭教育支援総合推進事業	2,000,000	2,000,000	
独立行政法人福祉医療機構	2,000,000	2,000,000	
キリン福祉財団	150,000	150,000	
寄付金	10,000	0	
事業収入	150,000	100,600	子育て実習参加費 フリマ･ブース代 ふれあい喫茶代
雑収入	110,363	39,240	
前年度繰越金	139,637	139,637	
合計	4,860,000	4,729,477	

支出の部

項　　目	予算額	決算額	備　考
事務費	240,000	270,407	
消耗品費	30,000	76,355	
通信運搬費	160,000	173,997	
事務局費	50,000	20,055	
広報費	200,000	99,010	
ミニコミ紙ハギッズ	150,000	95,610	
ホームページ	50,000	3,400	
事業費	180,000	81,494	
講座諸経費	50,000	12,433	
プール交流会	10,000	2,560	
フリーマーケット	20,000	10,732	
子育ての集い	50,000	31,864	
地域活動助成金	50,000	23,905	
特別事業費	4,150,000	4,150,000	
家庭教育支援総合推進事業	2,000,000	2,000,000	
独立行政法人福祉医療機構	2,000,000	2,000,000	
キリン福祉財団	150,000	150,000	
雑費	40,000	13,107	
繰越金	50,000	115,459	
合計	4,860,000	4,729,477	

●わが町にしなり子育てネット　会員名簿

（2005年5月12日現在）

№	団　体　名	役　員	代表者（施設長）	担当者	電　話	Fax	所在地
1	子育てサークルぴょんぴょんクラブ	◆幹　事	細田　綾子		6658-9155	同　左	松 3-2-36 西成児童館内
2	子育てサークルいちごクラブ	◆幹　事	田川　祐子		6658-9155	同　左	松 3-2-36 西成児童館内
3	子育てサークル　ちびっこクラブ		岡田　絵美		6658-9155	同　左	松 3-2-36 西成児童館内
4	今池こどもの家 わんぱくクラブ		小掠　昭	中谷　美紀	6632-7020	同　左	天下茶屋北1 今池こどもの家内
5	育児サークル　めばえ塾		前田　末子	吉本　智佐都	6651-0138	同　左	天下茶屋東2－8－6
6	子育てサークル　グループ虹		鬼丸　サエ子		6659-1026	－	千本北　1－2－9
7	西成地区保育所保護者会連絡会		川村　文治		090-8939-7112	－	中開 3-1-24　人権文化Ｃ内
8	さくら組〈ハギッズ編集グループ〉	◆幹　事	鈴木　眞奈美	相原　祐子	6656-0067	6656-0154	松 3-1-16 ボランティアＶ内
9	ラポール		冨金原　健太		6658-9155	同　左	松 3-2-36 西成児童館内
10	たんぽぽ〈ホームページ編集部〉	◆幹　事	湯川　二三四		6658-9155	同　左	松 3-2-36 西成児童館内
11	ひまわり〈子育て情報誌編集部〉	◆幹　事	大久保　智恵		6568-0097	同　左	長橋 2-5-33 ネットルーム内
12	すみれ〈保育ボランティアグループ〉	◆幹　事	金田　久子		6568-0097	同　左	長橋 2-5-33 ネットルーム内
13	にしなり子育て情報館〈メールマガジン発行〉	◆幹　事	西井　千織		6568-0097	同　左	長橋 2-5-33 ネットルーム内
14	ほーと・クラブ〈ボランティア個人登録窓口〉				6568-0097	同　左	長橋 2-5-33 ネットルーム内
15	おもちゃ図書館パンダ		森嶌　末子	石本　和彦	6656-0080	6656-0083	岸里 1-5-20
16	西成地区更生保護女性会		武田　紹子	辻　美弥・松山・小林	6659-9743	6659-9999	岸里　1-5-20
17	西成子育て支援センター	◆幹　事	片岡　ルリ	豊田　久美子	6562-6308	同　左	旭 2-7-17 松之宮保育所内
18	聖化保育園子育て支援センター	◆幹　事	畑野　基	別所　美子	6659-1700	4398-5330	千本中 2-7-9
19	ファミリーサポートセンター西成	◆幹　事	松本　博	佐藤　まり子	6562-6310	同　左	旭 2-7-17 松之宮保育所内
20	子ども家庭支援員事業	◆幹　事	課長　尾崎雅子	荘保　共子・関口　淑子	6659-9857	6659-2245	岸里 1-5-20 保健福祉係内
21	トライ！あんぐる		安田　幸雄	松下　敦子	4392-1193	同　左	長橋 2-5-33 青少年会館内
22	子育て支援員事業	◆幹　事	小掠　昭	川辺　康子	6568-0097	同　左	長橋 2-5-33 ネットルーム
23	区保健福祉センター　保健福祉担当	◆幹　事	課長　尾崎雅子		6659-9857	6659-9468	岸里 1-5-20
24	西成区家庭児童相談室	◆幹　事		乾　妃美子	6659-9913	6659-9468	岸里 1-5-20
25	区保健福祉センター　地域活動担当	◆幹　事	主幹　村上徳子	永石　真知子	6659-9968	6659-9468	岸里 1-5-20
26	大阪市立西成人権文化センター	◆幹　事		西田　孝臣	6561-0007	6561-9154	中開 3-1-24
27	地域生活支援センター「オタオタ」	◆幹　事	中久保　一美	末国　礼子	4398-7077	4398-7222	松 3-1-16
28	大阪市中央児童相談所	◆幹　事	村江　昇	吉村　明夫・市橋　隆	6797-6520	6797-3494	平野区喜連西 6-2-55
29	西成区ボランティアビューロー	◆幹　事	乾　繁夫	真鍋　知悟	6656-0067	6656-0154	松 3-1-16 ボランティアＶ内
30	大阪市立西成図書館	◆幹　事	村岡　和彦		6659-2346	6659-8599	岸里 1-1-50
31	財団法人ヒューマンライツ教育財団	◆副代表	谷川　雅彦		6568-1621	6568-0229	中開 3-1-24　人権文化Ｃ内
		◆事務局	寺本　良弘		6561-8800	6562-1221	中開 3-1-24　人権文化Ｃ内
32	西成人権協会	◆幹　事	本村　信一	西田　孝臣	6561-0007	6567-2086	中開 3-1-24　人権文化Ｃ内
33	芦原病院	◆幹　事	魚井	伊藤悠子・井田艶子・松浦祥栄	6561-1021	6567-2521代	浪速区浪速東 2-13-19
34	大阪府看護協会 まちの保健室なにわ		高森　勝子	田中　睦子	6657-8500	ー	岸里東 1-4-10
35	大阪市立西成児童館	◆事務局長	出水敦美	廣瀬　勉・西森　節子	6658-9155	同　左	松 3-2-36
36	大阪市立トモノス西成（西成勤労青少年ホーム）	◆会　計	松本　博	久保　紀子・吉井　栄子	6658-4528	同　左	梅南 1-2-6
37	児童館　今池こどもの家	◆幹　事	小掠　昭	澤村　稔・中谷　美紀	6632-7020	同　左	天下茶屋北 1-4-6
38	こどもの里	◆幹　事	荘保　共子	山口敏枝・前野智子	6645-7778	同　左	萩之茶屋 2-3-24
39	大阪市立西成青少年会館	◆幹　事	松元　彰	村田　ひとみ	6568-7300	6568-1570	長橋 2-5-33
40	たちばな学童保育所		野竹　知子	加藤　登代子	6651-7533	同　左	橘 3-10-6
41	第1青空学童保育所		小西　優里	亀井　杏美	6658-1056	同　左	千本南 2-2-3-1F
42	青空第2学童保育所		鮒子多　五月	古谷　壽子	6661-9265	－	千本南2-9-19
43	岸里学童保育所	◆幹　事	前田　美佐	松本　直央	6658-7264	同　左	岸里3-3-2-103
44	大阪市立玉出幼稚園	◆幹　事	中村　昭代		6661-4446	6661-6769	玉出中 2-13-29
45	大阪市立津守幼稚園		河野　かづゑ	牧本　一美	6661-1900	6661-7448	津守 3-1-66
46	大阪市立天下茶屋幼稚園		東　喜美子		6661-5641	6661-5964	聖天下 1-10-34
47	大阪市立千本保育所		田中　順子		6651-0073	同　左	千本南 2-11-20
48	大阪市立橘保育所		山根　了子	岡田　真理	6661-5813	同　左	橘 3-1-19
49	大阪市立天下茶屋保育所		岩出　恵美子		6653-6010	同　左	天下茶屋東 2-1-12
50	大阪市立長橋第1保育所		佐藤　美穂	狭間　育美	6561-3450	6561-0342	南開 2-2-24
51	大阪市立長橋第2保育所		埴田　隆子		6562-0016	6562-0082	南開 1-7-7
52	大阪市立長橋第5保育所		米澤　佳永子		6649-7216	6649-7203	長橋 1-6-28
53	大阪市立北津守保育所	◆幹　事	酒井　いく子		6568-4789	同　左	北津守 3-5-32
54	大阪市立松之宮保育所		藤田　弘美		6567-3460	6567-3470	旭 2-7-17
55	大阪市立津守保育所		佐伯　和美		6562-1780	同　左	津守 1-13-35
56	大阪市立南津守保育所		住岡　美千子		6658-4818	同　左	南津守 2-4-7-101
57	大阪市立松通保育所	◆幹　事	松岡　彰子		6659-2900	同　左	松 3-2-32
58	大阪市立松通東保育所	◆監　事	松田　和美		6659-4083	同　左	松 1-5-23
59	大阪市立山王保育所		山口　由起子		6633-7966	同　左	山王 1-6-10
60	聖化保育園		畑野　基	別所　美子	6659-1700	4398-5330	千本中 2-7-9
61	花園和敬学園		山本　教道	山本　篤子	6641-0845	6644-1118	旭 1-10-1
62	玉出西保育園	◆幹　事	谷口　昌子	山本　千津子	6658-8600	同　左	玉出西 2-20-70
63	玉出東保育園		辻　清美		6653-6700	6653-3642	玉出東 1-6-6
64	暁光会ひかり学園		西山　善樹		6562-0095	6562-0141	北津守 4-4-35
65	どんぐり保育園		奥田　直美		6659-0091	同　左	千本南 2-9-12
66	わかくさ保育園	◆代　表	小掠　昭	田戸　亜樹子	6633-2965	6633-2970	萩之茶屋 2-9-2
連	西成区児童虐待防止・子育て支援連絡会議		尾崎　雅子	原田利充・中山由美子	6659-9857	6659-9832	岸里 1-5-20
連	西成区主任児童連絡会		山崎　信雄	事務局　藤澤　博	6659-9882	6659-9832	岸里 1-5-20　3階支援運営課運営係　藤澤様方
連	西成区社会福祉施設連絡会		小掠　昭	平島　幸一	6656-0080	6656-0083	岸里 1-5-20
連	西成区役所　人権サロン・ネットワーク			事務局　川又　賢三	6659-9774	6659-2246	岸里 1-5-20
後	西成区社会福祉協議会		平島　幸一	石本　和彦	6656-0080	6656-0083	岸里 1-5-20

ネット事務局　6658－9155　松 3－2－36（西成児童館内）・ネットルーム　6568－0097　長橋 2－5－33（青少年会館内）

～～いつでもどこでもみんなで子育て～～

わが町にしなり子育てネット
(事務所) 西成青少年会館 2F　子育てﾈｯﾄﾙｰﾑ
TEL/FAX　6568－0097
(ホームページ) http://haginet.2.pro.tok2.com/

《子育てについて悩んでいませんか？》
わが町にしなり子育てネットは「いつでもどこでもみんなで子育て」を合言葉に活動しています。
さまざまな活動を通して、皆様のサポートをしていきたいと考えています。お気軽にご相談ください。

(2005.4月現在)

◆ボランティアグループ

団　体　名	電　話	
さくら組(ハギッズ編集)	6656－0067	○
ラポール	6658－9155	※
たんぽぽ(ホームページ作成)	6658－9155	※
ひまわり(情報誌編集)	6568－0097	◇
すみれ(保育ボランティア)	6568－0097	◇
にしなり子育て情報館(ﾒｰﾙﾏｶﾞｼﾞﾝ発	6568－0097	◇
はーと・クラブ	6568－0097	◇
おもちゃ図書館パンダ	6656－0067	
西成地区更生保護女性会	6659－9743	

◆官公署など

団　体　名	電　話
区保健福祉センター保健福祉係	6659－9857
区保健福祉センター地域活動係	6659－9968
西成区家庭児童相談室	6659－9913
西成人権文化センター	6561－0007
地域生活支援ｾﾝﾀｰ「ｵﾀｵﾀ」	4398－7077
大阪市中央児童相談所	6797－6520
西成区ボランティアビューロー	6656－0067
西成図書館	6659－2346

◆他関係団体・施設

団　体　名	電　話
西成児童館（事務局）	6658－9155
トモノス西成	6658－4528
児童館　今池こどもの家	6632－7020
こどもの里	6645－7778
西成青少年会館	6568－7300

◆子育てサークルなど

団　体　名	電　話	
ぴょんぴょんクラブ	6658－9155	※
いちごクラブ	6658－9155	※
ちびっこクラブ	6658－9155	※
わんぱくクラブ	6632－7020	☆
め ば え 塾　(吉本宅)	6651－0138	
グループ虹　(鬼丸宅)	6659－1026	
西成地区保育所保護者会連絡会	6561－0007	

◆他関係団体・施設

団　体　名	電　話
ヒューマンライツ教育財団	6561－8800
西成人権協会	6561－0006
芦原病院	6561－1021
府看護協会まちの保健室なにわ	6657－8500

◆大阪市地域子育て支援事業

団　体　名	電　話
西成子育て支援センター	6562－6308
ファミリーサポートセンター西成	6562－6310
聖化保育園子育て支援センター	6659－1700
子ども家庭支援員事業	6659－9857
トライ！あんぐる	4392－1193
子育て支援員事業(ﾈｯﾄﾙｰﾑ)	6568－0097

◆幼稚園

団　体　名	電　話
玉出幼稚園	6661－4446
津守幼稚園	6661－1900
天下茶屋幼稚園	6661－5641

◆保育所・保育園

団 体 名	電 話	団 体 名	電 話
千本保育所	6651－0073	松通保育所	6659－2900
橘保育所	6661－5813	松通東保育所	6659－4083
天下茶屋保育所	6653－6010	山王保育所	6633－7966
長橋第１保育所	6561－3450	聖化保育園	6659－1700
長橋第２保育所	6562－0016	花園和敬学園	6641－0845
長橋第５保育所	6649－7216	玉出西保育園	6658－8600
北津守保育所	6568－4789	玉出東保育園	6653－6700
松之宮保育所	6567－3460	暁光会ひかり学園	6562－0095
津守保育所	6562－1780	どんぐり保育園	6659－0091
南津守保育所	6658－4818	わかくさ保育園	6633－2965

◆学童保育所

団 体 名	電 話
たちばな学童保育所	6651-7533
第一青空学童保育所	6658-1056
青空第二学童保育所	6661-9265
岸里学童保育所	6658-7264

【連絡先】　※…西成児童館　☆…今池こどもの家　○…西成区ボランティアビューロー　◇…ネットルーム